

学科別専門科目

科目名	絵画表現基礎 I A						
授業コード	2890	授業科目名	絵画表現基礎 I A			担当者	教民阿 仁井 講繁木 講隆小 龍清 講雅 島 暁田、え 範川、講藤今 師仁村、美島、講本、郎口、講野山 師、講辺 師 明吉 授幸伊 講泰木 師由小 師已坂 師太 関 師子水、講晶 渡 講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講昌、師吉本、こ 三 授 仁 部 師 講 唐 大 師 之 村 師 三 森 師 幸 水 師 文 山 師 講 淳 山 師 づ
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身の周りの生活空間に注目し選び出した植物や器物などを対象に「静物画」を制作する。作者の興味を基にした取材を通して、静物の構造や環境性の把握、明暗と色彩の関係、構成や構図と言った画面の内外への造形的視点を養うと共に、油彩絵具やアクリル絵具を用いた制作を实践し、各描画材が持っている特性や色彩の扱いを体得しながら独自の絵画表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 「静物を描く」

1-1 植物や器物などの静物を対象に様々な視点から取材をする。

1-2 1-3につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。

1-3 植物や器物などの静物を対象に油彩またはアクリルで制作する。15号のキャンバス1点。また、作品制作に関する記述文を200～400字以内にまとめる。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎 IA・II 2022 年度』の「絵画表現基礎 IA」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021 年）

○学習指導書

『絵画表現基礎 IA・II 2022 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022 年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 I B						
授業コード	2900	授業科目名	絵画表現基礎 I B			担当者	教民阿 仁井 講繁木 講隆小 龍清 講雅 島 暁田、え 範川、講藤今 師仁村、美島、講本、郎口、講野山 師 講 辺 師 明吉 授幸伊 講泰木 師由小 師已坂 師太 関 師子水、講晶 渡 講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講昌、師吉本、こ 三授 仁部 師講庸大 師之村 師三 森 師幸水 師文 山 師講 淳山 師つ
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日頃目にしている物が、モチーフとして目の前に置かれることで日常的な用途の意味から切離され、光の反射によって造形物としての純粋な形、色、質感、性質が浮び上がります。
この授業ではモチーフを通してそれらを捉えることから始まり、対象物と向き合いながら、そこにおける自らの関心や視点を探ります。

【課題の概要】

○面接授業課題「静物を描く」

- 1-1 組まれたモチーフをデッサンまたはドローイングする。描画材自由
1-2 組まれたモチーフを油彩またはアクリルで制作する。15～20号キャンバス

【授業計画】

○面接授業

- 第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作
第2日 午前：制作 午後：制作
第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評
第4日 午前：前提講義及び制作 午後：制作
第5日 午前：制作 午後：制作
第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 III A						
授業コード	2910	授業科目名	絵画表現 III A			担当者	教民阿 仁井 講 繁木 隆小 龍清 講 雅島 繁野山 晶辺師 範川、講 藤今 師 仁村、美島、講 本、郎口、講 村水、講 本渡講 明吉 授 幸伊、講 泰木 師 由小 師 已坂 師 太関 師 子松、師 吉山、こ 浦、教 英、師 介家、講 真、講 塚、講 健、講 昌、師 講 淳、師 つ 三 授 仁 部 師 講 唐 大 師 之 村 師 三 森 師 幸 水 師 文 山 師 講 曉 田 師 講 え
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに人物や自然を対象とした制作を行う。人間や自然は、最も普遍的なテーマであり、絵画の歴史とともに描かれてきた。身近な人物や自然をじっくりと観察し、そこで得られた発見を通して、それぞれの表現に結び付けていく。

【課題の概要】

○通信授業課題「観察と表現」

- 1-1 「気になる人」をクロッキーまたはドローイングをする。
- 1-2 「1-1」を基に、エスキースを制作する。
- 1-3 「1-2」で制作したエスキースを基に、油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA 2022年度』の「絵画表現ⅢA」を参照。
教科書『絵画の材料』および教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

- 『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
- 『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
- 『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画表現ⅢA・ⅣA 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 III B						
授業コード	2920	授業科目名	絵画表現 III B	担当者	教民阿 仁井 講繁木 講隆小 龍清 講雅 島 繁野山 晶辺師 範川、講藤今師仁村、美島、講本、郎口、講村水、師吉山、こ 明吉授幸伊、講泰木師由小師己坂師太関師子松、師吉山、こ 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講昌、師講淳、師つ 三授仁部師講庸大師之村師三森師幸水師文山師講曉田師講え		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「観察と表現」をテーマに、人物と植物を組み合わせた制作を行い、表現の多様性を知る。じっくりと観察することでそれぞれの関心の対象が異なることを知り、それに伴う表現を探求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「観察と表現」

1-1 人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、クロッキーまたはドローイングをする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙程度の大きさのエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー、ドローイングを複数枚とエスキースを最低1枚提出。

1-2 エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。支持体は 30 号キャンバス。

【授業計画】

○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）
 第 2 日 午前：制作／午後：制作
 第 3 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
 第 4 日 午前：前提講義及び制作（油彩またはアクリル）／午後：制作
 第 5 日 午前：制作／午後：制作
 第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現 IV A						
授業コード	2930	授業科目名	絵画表現 IV A	担当者	教民阿 仁井、講藤今師仁村、美島、講本、郎口、講村水、繁野山、晶辺師、三授仁部師講唐大師之村師三森師幸水師文山師講曉田師講え		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。今日の絵画においては、さまざまな空間表現が試みられている。この科目では植物と室内風景をモチーフに、それぞれの求める空間がどのようなものなのか、描く事で確認することが目標である。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○通信授業課題「空間と構成」

- 1-1 植物と室内をクロッキーまたはドローイングをする。
- 1-2 1-1を基に、植物と室内を組み合わせたエスキースを制作する。
- 1-3 エスキースを基に、植物と室内を組み合わせた油彩またはアクリルで制作する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現ⅢA・ⅣA 2022年度』の「絵画表現ⅣA」を参照。
教科書『絵画の材料』および教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

- 『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
- 『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
- 『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画表現ⅢA・ⅣA 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 IV B						
授業コード	2940	授業科目名	絵画表現 IV B			担当者	教民阿 仁井 講 繁木 講 隆小 龍清 講 雅島 繁野山 晶辺師 範川、講 藤今師 仁村、美島、講 本、郎口、講 村水、講 本渡講 明吉授 幸伊、講 泰木師 由小師 已坂師 太関師 子松、師 吉山、こ 浦、教 英、師 介家、講 真、講 塚、講 健、講 昌、師 講 淳、師 つ 三授 仁部師 講 庸大師 之村師 三森師 幸水師 文山師 講 曉田師 講 え
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「空間と構成」をテーマに制作する。人体をモチーフに、さまざまな取材を行い、それを基に構成して描くことで、それぞれの求める空間がどのようなものなのかを確認する。その空間をより魅力的なものにするための要素として、構成や構図について考え、研究することも重要な学習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題「空間と構成」

1-1 人物（ヌード）の固定ポーズ、短時間ポーズ、ムービングなどを通して、さまざまな取材をする。それを基に、B2 画用紙または木炭紙程度の大きさに構成したエスキースを制作する。描画材は自由。クロッキー等を複数枚とエスキースを最低1枚提出。

1-2 エスキースを基に、油彩又はアクリルで制作する。30～40号程度キャンバス。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー等・エスキース）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

第4日 午前：前提講義及び制作（油彩またはアクリル）／午後：制作

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

科目名	絵画表現 V A						
授業コード	2950	授業科目名	絵画表現 V A			担当者	教民阿 仁家、講龍清、講雅昌、繁野山、晶辺師、 範川、講藤大師三本、郎口、講村水、講本渡、 明吉、幸伊、講隆坂師、大関師子松、師吉山、 浦、教英、師仁島、講健、講昌、師講、 三授、仁部師、講泰小師、幸水師、文山師、講曉田師、 講え
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「明暗と色彩」をテーマに制作する。明暗と色彩は切り離すことができない関係にあるが、絵画表現においては、明暗と色彩は外界と内面、物質と非物質など、対立する関係の表現に適している。それぞれが求める絵画空間に必要な要素としての明暗と色彩の働きを知り、制作する上で表現に結び付けることを試みる。また、絵具をはじめとするマチュエールの働きも理解する。

【課題の概要】

「明暗と色彩」

- 1-1 静物を組み、明暗を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。
 1-2 同じ静物を対象に、色彩を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。
 1-3 明暗または色彩を重視した平面作品を油彩またはアクリルで制作する。30～40号程度1点提出。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎VA～VIA 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）の「絵画表現VA」を参照。
 教科書『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）および教科書『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

○教科書

- 『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
 『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
 『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画表現基礎VA～VIA 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

【その他】

なし

科目名	絵画表現 VB						
授業コード	2960	授業科目名	絵画表現 VB	担当者	教民阿 仁家、講龍清講雅昌 繁野山 晶辺師 範川、講藤大師三本、郎口、講村水、講本渡講 明吉授幸伊、講隆坂師太関師子松、師吉山、こ 浦、教英、師仁島、講健、講昌、師講淳、師つ 三授仁部師講泰小師幸水師文山師講曉田師講え		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「明暗と色彩」をテーマに制作する。明暗と色彩は切り離すことができない関係にあるが、絵画表現においては、明暗と色彩は外界と内面、物質と非物質など、対立する関係の表現に適している。それぞれが求める絵画空間に必要な要素としての明暗と色彩の働きを知り、制作する上で表現に結びつけることを試みる。また、絵具をはじめとするマチエールの働きも理解する。

【課題の概要】

○面接授業課題

「明暗と色彩」

1-1 静物を組み、明暗または色彩を中心にしたドローイング（デッサン）を制作する。具体的な表現でも良いし、要素の抽出で構成しても良い。

1-2 1-1を基に、明暗または色彩を重視した平面作品を油彩またはアクリルで制作する。30～40号程度1点提出。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（ドローイング又はデッサン）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

第4日 午前：前提講義及び制作（油彩またはアクリル）／午後：制作

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名		絵画表現 VIA					
授業コード	2970	授業科目名	絵画表現 VIA			担当者	教民阿 仁家、講龍清講雅昌 繁野山 晶辺師 範川、講藤大師三本、郎口、講村水、講本渡講 明吉授幸伊、講隆坂師太関師子松、師吉山、こ 浦、授英、師仁島、講健、講昌、師講淳、師つ 三授仁部師講泰小師幸水師文山師講曉田師講え
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「表現の可能性とテーマの追求」－「見つける、集める、描いてみる」
この課題を通して先ずはその足掛かりとして描いてみたいものを「見つける」ことから始める。それが直接テーマへと繋がるのか、またはそこから何かが開発するのか、実際に描き、試行錯誤しながら自らの表現方法を追求することを体験する。描くことに始めからテーマがあるのではなく、自分にとって新たな試みに挑戦し、表現の方向性を探りながら試行錯誤をすること。この体験こそが次への表現に結び付き、ようやくテーマが見出されることを知る。卒業制作に向かうための準備段階と位置づけ、各自の表現方法を探り、試行錯誤する体験や追求から制作の骨格を発見し、その中にテーマが隠れていることを学習する。

【課題の概要】

「表現の可能性とテーマの追求」－「見つける、集める、描いてみる」
1-1 人、物、風景、空間、印刷媒体、写真などから「描いてみたい」と感じるものを見つけ、クロッキーをしながら取材をする。
1-2 「1-1」を基に構成的なドローイングとエスキースを制作する。
1-3 「1-2」を基に表現の可能性を試みながら平面作品を制作する。また、テーマやモチーフについて考えたことや感じたことを400字程度にまとめる。

【授業計画】

学習指導書『絵画表現VA・VIA 2022年度』の「絵画表現VIA」を参照。
教科書『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース必修科目。
絵画表現コース1、2年次必修科目の単位を修得済か同時履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
『複合的表現』（一絵画からの展開一）（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書
『絵画表現VA・VIA 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現 VIB						
授業コード	2980	授業科目名	絵画表現 VIB	担当者	教民阿 仁家、講龍清講雅昌 繁野山 晶辺師 範川、講藤大師三本、郎口、講村水、講本渡講 明吉授幸伊、講隆坂師太関師子松、師吉山、こ 浦、教英、師仁島、講健、講昌、師講淳、師つ 三授仁部師講泰小師幸水師文山師講曉田師講え		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
 この課題を通して先ずはその足掛かりとして描いてみたいものを「見つける」ことから始める。それが直接テーマへと繋がるのか、またはそこから何かが開発するのか、実際に描き、試行錯誤しながら自らの表現方法を追求することを体験する、描くことに始めからテーマがあるのではなく、自分にとって新たな試みに挑戦し、表現の方向性を探りながら試行錯誤をすること。この体験こそが次への表現に結び付き、ようやくテーマが見出されることを知る。卒業制作に向かうための準備段階と位置づけ、各自の表現方法を探り、試行錯誤する体験や追求から制作の骨格を発見し、その中にテーマが隠れていることを学習する。

【課題の概要】

「表現の可能性とテーマの追求」―「見つける、集める、描いてみる」
 1-1 複数枚のドローイングと大エスキース（B2サイズ以上）を最低1枚制作する。描画材は自由。制作したすべてのエスキースを提出する。
 1-2 「1-1」で制作したエスキースを基に、油彩またはそれに準ずる素材で制作する。支持体はキャンバスほか自由で30～40号の大きさ。1点提出。

【授業計画】

第1日 午前：前提講義及び制作 午後：制作
 第2日 午前：制作 午後：制作
 第3日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評
 第4日 午前：制作 午後：制作（平面作品）
 第5日 午前：制作 午後：制作
 第6日 午前：制作 午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 3年次～

○履修条件
 油絵学科に所属していること。

○備考
 絵画表現コース必修科目。
 絵画表現コース1、2年次必修科目の単位を修得済か同時履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

参考としてWebキャンパス「動画視聴」内の「手作りキャンバスとパネルの下地こしらえ」の視聴を薦める。

科目名	絵画表現演習						
授業コード	2990	授業科目名	絵画表現演習			担当者	三浦明範教授 吉川民仁
開講期間	通年	単位数	1単位 (S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

絵画表現に向かう上で、テーマやモチーフ、素材や手法など、それぞれが見出していかなければならない。さまざまな作家の例を取り上げて参考にし、発見の手がかりとする。また、卒業制作に向けてのガイダンスを行い、それぞれの計画を立てる。

【課題の概要】

○面接授業課題

さまざまな作家の研究を行う。また、卒業制作までの計画を立てる。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：講義／午後：講義および演習

第2日 午前：講義および演習／午後：演習とレポート作成

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	絵画表現基礎 II						
授業コード	3030	授業科目名	絵画表現基礎 II			担当者	教民阿 仁井 講繁木 講隆小 龍清 講雅 島 暁田、え 範川、講藤今 師仁村、美島、講本、郎口、講野山 師、講邊 師 明吉 授幸伊 講泰木 師由小 師已坂 師太 関 師子水、講晶 渡 講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講昌、師古本、こ 三授 仁部 講庸大 師之村 師三 森 師幸水 師文 山 師講 淳山 師つ
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

この課題では「人を描く」ことがテーマとなる。対象として「人」を観察すると色、光、形など、目の前の「人」からは色々な要素が見えてくる。「人」はとてとてもオーソドックスな対象であるが、決して色褪せることのない多様な要素を持つ絵画の代表的な題材の一つである。各人が自分の視点を通して制作に取り組み、それぞれの表現につながる発見を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題 「人を描く」

1-1 自画像、または身近な人を様々な視点から取材する。

1-2 1-3の制作につながるエスキースを制作する。木炭紙大の任意の用紙2点。

1-3 自分又は身近な人を対象とし、油彩またはアクリルで制作する。15号～20号のキャンバス1点。作品制作に関する記述文を200字～400字にまとめる。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現基礎 IA・II 2022年度』の「絵画表現基礎II」を参照。

教科書『絵画の材料』『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書

『絵画表現基礎 IA・II 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

初学者には通信課題に取り組む前にWebキャンパス「動画視聴」内の「油彩画・アクリル画の道具」を視聴することを薦める。

科目名	絵画表現基礎 III						
授業コード	3040	授業科目名	絵画表現基礎 III			担当者	教民阿 仁井 講繁木 講隆小 龍清 講雅 島 暁田、え 範川、講藤今 師仁村、美島、講本、郎口、講野山 師 講辺 師 明吉 授幸伊 講泰木 師由小 師已坂 師太 関 師子水、講晶 渡 講 浦、教英、師介家、講真、講琢、講健、講昌、師吉本、こ 三授 仁部 師 講唐大 師之村 師三 森 師幸水 師文 山 師 講淳山 師つ
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

美術史の中において人物を中心テーマとして描かれている作品は数多くある。
何故、人を描くのか？それは一番身近なモチーフであり人間が人間に興味と関心を持つ存在だからである。長い美術史において様々な画家が独自のスタイル（個性、世界観、感性）をどの様に築き表現してきたかを注視し、自分らしい表現とは何かを考え、それぞれの個性を重視する。そして前後半通し（6日間）十分な時間を使い、自由に絵を描く楽しさと難しさを体験する。

【課題の概要】

○面接授業課題「人物を描く」

- 1-1 人物(ヌード)1名を配置し、制作する。20号キャンバス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。
1-2 人物(着衣)1名を配置し、制作する。20号キャンバス、またはそれに相当する任意の用紙1点以上。

【授業計画】

○面接授業

第1日 オリエンテーション・前提講義→クロッキー・エスキース→油彩制作（アクリル可）

第2日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第3日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第4日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第5日 制作 午前：裸婦 午後：着衣
第6日 制作 午前：裸婦 午後：着衣→講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価とする

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎II～IV）より1科目以上単位修得が必要。
「絵画表現基礎IB」を同時に履修する場合は「絵画表現基礎IB」を先に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

科目名	絵画表現基礎 IV						
授業コード	3050	授業科目名	絵画表現基礎 IV			担当者	教民遠 利元 庸木 真 講 範川、教浜、教井、講村師己 明吉授太高授治今師之木講琢 浦、教竜、教久、講繁、美森 三授仁藤授也田授介村師由小師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

版表現では、平、凸、凹、孔の形式がある。それぞれ性質を異にするものであるが、版という共通の概念で結ばれている。授業ではこの4つの形式のうちの2つを選択し、版表現と関わりの深い本を題材にして、版を使ってオリジナルの手帳カバーと蔵書票を制作する。その中で表現の可能性を探り、それぞれの版種の基本技法を体験する。

※蔵書票：所蔵者を示すために蔵書の表紙・見返しなどに貼りつける、印刷された小票。書票。エクスリプリス。

【課題の概要】

○面接授業課題

前半で「リトグラフ」または「スクリーンプリント」、後半で「木版」または「銅版」のそれぞれ1版種を選択する（面接授業申込時に選択）。

1-1 ムサビ手帳のカバーを制作する。「リトグラフ」「スクリーンプリント」イメージサイズ21.5×16cm程度

1-2 自身の気に入っている本の蔵書票を制作する。「木版」「銅版」イメージサイズ10cm×10cm程度

【授業計画】

○面接授業

・前半 ムサビ手帳のカバー 「リトグラフ」または「スクリーンプリント」

第1日 午前：制作

午後：制作

第2日 午前：制作

午後：制作

第3日 午前：制作

午後：制作及び相互鑑賞会

・後半 本の蔵書票 「木版」または「銅版」

第4日 午前：制作

午後：制作

第5日 午前：制作

午後：制作

第6日 午前：制作

午後：制作及び相互鑑賞会

【成績評価の方法】

面接授業課題の総合評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（絵画表現基礎Ⅱ～Ⅳ）より1科目以上単位修得が必要。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

受講の際は下図を必ず持参すること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	複合的表現 I A						
授業コード	3060	授業科目名	複合的表現 I A	担当者	教民阿 仁家、講龍清講雅昌 繁野山 晶辺師 範川、講藤大師三本、郎口、講村水、講本渡講 明吉授幸伊、講隆坂師太関師子松、師吉山、こ 浦、教英、師仁島、講健、講昌、師講暁田師講え 三授仁部師講泰小師幸水師文山師講曉田師講え		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「フォト・コラージュ」
複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現方式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作する。

【課題の概要】

1-1 「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について200～400字で解説をする。

【授業計画】

学習指導書『複合的表現 I A・II A 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）の「複合的表現 I A」を参照。
教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。
教科書『絵画の材料』を参照。
教科書『絵画の表現』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

○教科書
『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）
『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書
『複合的表現 I A・II A 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

【その他】

なし

科目名	複合的表現 I B						
授業コード	3070	授業科目名	複合的表現 I B	担当者	教民阿 仁家、講龍清、講雅昌、繁野山、晶辺師、範川、講藤大、師三本、郎口、講村水、講本渡、講明吉、授幸伊、講隆坂、師太、関師子、松、師吉、山、浦、教英、師仁島、講健、講昌、師講、淳、師三、授仁、部師、講泰、小師、幸水、師文、山師、講曉、田師、講え		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (絵画表現コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」・「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。
面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

【課題の概要】

○面接授業課題

「内的空間の表出」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。

2種類のドローイング (A: 音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら、B: 自分の内的世界を探りながら) を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品 (写真、手紙、小物など) を加え、自己の内的世界を表現する。

【授業計画】

第1日 午前：前提講義及びドローイング 午後：ドローイング

第2日 午前：ドローイング 午後：中間講評及び立体制作

第3日 午前：立体制作 午後：立体制作

第4日 午前：立体制作 午後：立体制作

第5日 午前：立体制作 午後：立体制作

第6日 午前：立体制作 午後：立体制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

絵画表現コースに所属していること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	複合的表現 II A						
授業コード	3080	授業科目名	複合的表現 II A	担当者	教民袴教耕、講仁家、講龍清、講雅島、 範川、朗林、幸藤、大、郎、口、講野山、 明吉、太、教英、伊、講隆坂、大、関、水、 浦、教、京、准、部、師、仁、島、講、健、講、昌、 三、授、仁、田、授、平、阿、師、講、泰、小、師、幸、水、 師、文、山、師、講、淳、山、師、つ、こ		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」
 ここでは身の回りの場所や空間をよく観察して見ることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。このような経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とする。

【課題の概要】

1-1 スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、配置しない場合の状態をクロッキーする。
 1-2 「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから1点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。また、作品について200～400字で解説する。

【授業計画】

学習指導書『複合的表現IA・IIA 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）
 教科書『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）
 教科書『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
 教科書『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 3年次～

○履修条件
 油絵学科に所属していること。

○備考
 絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

○教科書
 『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）
 『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）
 『絵画の表現』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書
 『複合的表現IA・IIA 2022年度』（武蔵野美術大学出版局 2022年）

科目名	複合的表現 II B						
授業コード	3090	授業科目名	複合的表現 II B	担当者	教民阿 仁家、講龍清講雅昌 繁野山 晶辺師 範川、講藤大師三本、郎口、講村水、講本渡講 明吉授幸伊、講隆坂師太関師子松、師吉山、こ 浦、教英、師仁島、講健、講昌、師講淳、師つ 三授仁部師講泰小師幸水師文山師講曉田師講え		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（絵画表現コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」
ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してみることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。この様な経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

【課題の概要】

○面接授業課題

「場所から生まれるもの」

1-1 「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。また、ドローイングから実制作にいたる過程を写真で記録しながら、記録集を作成する。

【授業計画】

第1日 午前：前提講義及びドローイング 午後：ドローイング及び場所選び
第2日 午前：制作 午後：制作（中間指導）
第3日 午前：制作 午後：制作（中間指導）
第4日 午前：制作 午後：制作（中間指導）
第5日 午前：制作 午後：制作および記録集制作
第6日 午前：記録集制作 午後：採点・講評・撤去作業

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。
「複合的表現 II B」の単位を修得済であるか、同時に履修登録すること。

○備考

絵画表現コース選択必修科目。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 I						
授業コード	3100	授業科目名	日本画基礎 I			担当者	教孟彌、講 治原神師、 啓石、講 政、師子 重授、講 佐星室師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で用具を揃える、扱うといった初歩的なことから作品の制作をする準備から完成までの工程体験を中心に学ぶ。また日本画特有の骨描きやたらし込み、掘り塗り等の表現法や制作に必要な用法習得を目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画を描く」
日本画の用具用材の紹介をもとに与えられたモチーフを使い、F15号以上の画面への紙本彩色を通して用具の扱い方および制作工程の基礎となる準備から完成までの工程を体験する。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：デッサンの説明／午後：制作のためのデッサン
第2日 午前：前提講義／午後：大下図制作
第3日 午前：骨描き／午後：下地作り
第4～5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
日本画表現コースの学生は初年次に受講すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 II						
授業コード	3110	授業科目名	日本画基礎 II			担当者	教孟彌、講 治原神師、講 啓石、講師世 重政、師子晃 授、講佐星室 師一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画を描く上で必要な写生と言われるデッサンの導入として、モチーフの観察や捉え方、その描写する方法などの本画制作に必要な記録法について学ぶことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題1「日本画のデッサン」

モチーフを良く見て観察し、画用紙に日本画を描くために必要な資料としての鉛筆デッサンをする。

- ・部分的、クロッキー的、記録的な要素を踏まえたデッサンをする。
- ・細密描写をする。
- ・明暗、立体感をともなった細密描写をする。

○通信授業課題2「筆を使う」

筆の特性や使い方を知ることが目的に日本画筆を用いてデッサンをする。

- ・筆を用いて墨で描く。
- ・筆を用いて彩色する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画基礎II・日本画研究I 2022年度』の「日本画基礎II」を参照。

教科書『日本画・表現と技法』の「花を描く」を参照。

教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

日本画表現コース必修科目。

初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画基礎II・日本画研究I 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 III A						
授業コード	3120	授業科目名	日本画基礎 III A			担当者	教孟彌、講師、治原神師、講師、啓石、講師、佳世、重政、師、子晃、井、和師、重授、講、佐、星、室、師、一
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

線を描くことは日本画では重要な位置を占める。その線は様々な描き方や表情を生むことができるが、描く、引く筆を使いこなす力を養うことも大切である。本授業では線の美しさや勢いのある線の練習をおこない、筆を扱う力を養うことを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「墨で描く」
筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドウサ引き）などを使い分けたくさんの線描をおこなう。又、筆を使った線描法でデッサンをする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2022年度』の「日本画基礎ⅢA」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書
『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 III B						
授業コード	3130	授業科目名	日本画基礎 III B			担当者	教孟彌、講 治原神師、講 啓石、講師世 重政、師、講 佐星室師、講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

古典模写をおこなうことで作品の鑑賞も含め、描写の工程、描写法などを見て、日本画の絵具がどのように扱われ使用されて来たか、また様々な技法や様式を検証することを目的とする。そのために現状模写として描き再現することで、基本としての日本画素材を扱う方法や技法の追求もあわせておこなう。

【課題の概要】

○面接授業課題「古典模写」
古典の模本をもとに線描による模写と彩色による模写をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作
第2日 午前：制作／午後：制作
第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
第4日 午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作
第5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎I～V」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 IV A						
授業コード	3140	授業科目名	日本画基礎 IV A			担当者	教孟彌、講師世田、治原神師、講師和、啓石、講師佳和、重政、講師星室、一
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

身近な人を題材に形態として、人の骨格、動き、自然造形的美しさを探り、人から受ける内面性を把握しながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求することを目標とする。

【課題の概要】

- 通信授業課題「人物を描く」
 身近な人、または自己をモデルにクロッキーおよびデッサンをする。また、それをもとに日本画制作をする。
- ・ 人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
 - ・ 身近な人や自己をモデルに身体デッサンをする。
 - ・ クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
 学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2022年度』の「日本画基礎ⅣA」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとに授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 2年次～

○履修条件
 油絵学科に所属していること。
 「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
 日本画表現コース必修科目。
 初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。
 「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書
 『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
 『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書
 『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 IV B						
授業コード	3150	授業科目名	日本画基礎 IV B			担当者	教孟彌、講 治原神師、講 啓石、講佳和 政、師子晃井、師 重授、講佐星室師一
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、人から受ける内面性を探りながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「身体を描く」

- ・ 身体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○面接授業

第 1 日	午前：前提講義およびデッサン／午後：デッサン
第 2 日	午前：デッサン／午後：デッサン
第 3 日	午前：準備・下図・制作／午後：制作
第 4 日	午前：制作／午後：制作
第 5 日	午前：制作／午後：制作
第 6 日	午前：制作／午後：制作、講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
「日本画基礎I～V」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画基礎 V						
授業コード	3160	授業科目名	日本画基礎 V			担当者	教孟彌、講 治原神師、 啓石、講師 重政、師、 佐星、昇井、 一室、講和師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

水を使うことを基本にした絵具の表現の幅を学ぶために、指定された描画材や着彩の工夫を通して、造形すること、彩色することをおこないつながりながら水や支持体がもたらす表現の可能性を様々な手法を用い体感し、構築すること、表現をすることを研究することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題「構築1」

1-1 制作の条件による色の組み合わせを考えた構成画を制作する。

○通信授業課題「構築2」

2-1 静物をモチーフにスタンプでデッサンする。

2-2 組み合わせた透明素材をモチーフに支持体と描画材とともに 3 種類選択し、デッサンする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2022 年度』の「日本画基礎Ⅴ」をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。

「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

日本画表現コース必修科目。

初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

「日本画基礎Ⅰ～Ⅴ」はローマ数字の順に受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画基礎ⅢA・ⅣA・Ⅴ 2022 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022 年）

【その他】

なし

科目名	日本画応用 I A						
授業コード	3170	授業科目名	日本画応用 I A	担当者	重政啓治教、師石原孟、講子晃井、師佳和田、一室井和師、講師		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (日本画表現コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠 (= 形象化) と構成について学ぶ。
 絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。デッサン、下図等をもとにした画面上での構成、イメージによる造形、自由な展開への試みを行う。

【課題の概要】

- 通信授業課題「意匠研究」
 対象物を形象化し日本画の顔料を使うのに適した形を描く。又、制作工程を意識した日本画制作をする。
- ・制作を意識したデッサン、下図及び制作日記を制作する。
 - ・制作工程を意識した日本画制作をする。

【授業計画】

学習指導書『日本画応用 I A・II A 2022年度』の「日本画応用 I A」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 3年次～

○履修条件
 油絵学科に所属していること。
 「日本画基礎 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
 日本画表現コース必修科目。
 初学者は「日本画基礎 I」を受講後に課題に取り組むこと。
 日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済みか同時履修することが望ましい。

【教材等】

- 教科書
 『日本画 表現と技法』(武蔵野美術大学出版局 2002年)
 『現代日本画の発想』(武蔵野美術大学出版局 2004年)
- 学習指導書
 『日本画応用 I A・II A 2022年度』(武蔵野美術大学通信教育課程 2022年)

【その他】

なし

科目名	日本画応用 I B						
授業コード	3180	授業科目名	日本画応用 I B	担当者	重政啓治教、師石原孟、講子晃井、師佳和、師一星室師、講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (日本画表現コース必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠 (= 形象化) と構成について学ぶ。日本画素材の特徴のひとつである金箔、銀箔のあかし方、野毛等の技法や扱い方を知り、制作を通して箔を使用した絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。箔を扱い取り入れた描き方、描くことで発生する独自の形と構成を研究する。

【課題の概要】

○面接授業課題「表現研究」
素材と意匠を考え、構成による独自の形で30号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義 (箔指導) 及び制作 / 午後：制作 (下図研究)
第2日 午前：制作 / 午後：制作
第3日 午前：制作 / 午後：制作
第4日 午前：制作 / 午後：制作
第5日 午前：制作 / 午後：制作
第6日 午前：制作 / 午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画応用 II A						
授業コード	3190	授業科目名	日本画応用 II A	担当者	重政啓治教、師石原孟、講子晃、師佳、星室井和、師一講和田雄		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

和紙等、様々な支持体の研究を通して日本画表現を学ぶ。静物や自由な発想によるテーマをもとに描画材との関係と幅広い独自性のある表現法を知り体感することで、素材の重要性を知る。
和紙の特性を知り、染める、加工する等の支持体を考察したものを利用して制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「素材と技法」

天然染料としての草木などや化学染料を利用して和紙を染める。更に、それを支持体とし、静物などをモチーフに日本画制作をする。

- ・身の回りにある染料を用いて和紙を染める。
- ・染めた和紙を使い、日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画応用 I A・II A 2022年度』の「日本画応用 II A」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

日本画表現コース必修科目。
初学者は「日本画基礎I」を受講後に課題に取り組むこと。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画応用 I A・II A 2022年度』（武蔵野美術大学通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	日本画応用 II B						
授業コード	3200	授業科目名	日本画応用 II B	担当者	重政啓治教、師石原孟、講子晃井、師佳和田、室井和、師一講		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (日本画表現コース必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

支持体と日本画絵具の関係は様々な表現の可能性を秘め、そこに個の扱い方が加わることでさらにその可能性が増す。本授業では支持体の研究として絹、麻を用いて日本画制作をしながら表現の探求を行う。

【課題の概要】

○面接授業課題「素材研究」
尺八サイズの絵絹とF8号の麻布に日本画制作する。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義及び制作準備／午後：制作
第2日 午前：制作／午後：制作
第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
第4日 午前：麻布制作／午後：制作
第5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作・講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画表現演習						
授業コード	3210	授業科目名	日本画表現演習	担当者	重政啓治教、師石原孟、講子晃井、師佳和田、一室師、講師		
開講期間	通年	単位数	1単位 (S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画制作において、箔押しや裏打ちは必要になることが多くなる。その扱い方の講義をふまえ、演習を行う。

【課題の概要】

○面接授業課題
制作に必要な箔押しや裏打ちの講義を行い、その体験をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：制作手法の紹介を行う。
第1日 午後：作家が行う箔押しの紹介と実習。
第2日 ：作家が行う裏打ちの紹介と実習。

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
日本画表現コース必修科目。
「日本画基礎Ⅰ」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース1～3年次必修科目の単位を修得済か同時履修することが望ましい。
受講人数を制限する場合がある。抽選の際は日本画表現コース所属の学生を優先する。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画研究 I						
授業コード	3250	授業科目名	日本画研究 I			担当者	教孟彌、講師 治原神師、講師 啓石、講師 重政、師、講 佐星、師、講 一室、師、講
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（日本画表現コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに通信授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

- 通信授業課題1「制作工程1」
 - ・遠近感のある身近な風景のデッサンをする。
 - ・興味深い場所や、特徴のある視点で選んだ対象をデッサンする。
 - ・風景をモチーフに、色を用いてデッサンする。

- 通信授業課題1「制作工程2」
 - ・描いたデッサンをもとに小下図、大下図制作、本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業
学習指導書『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ 2022年度』の「日本画研究Ⅰ」を参照。
教科書『日本画・表現と技法』の「風景を描く」を参照。
教科書『現代日本画の発想』を参照。

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
1年次～

- 履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎Ⅰ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

- 備考
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究Ⅰ～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。
初学者は「日本画基礎Ⅰ」を受講後に課題に取り組むこと。

【教材等】

- 教科書
『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）
『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）
- 学習指導書
『日本画基礎Ⅱ・日本画研究Ⅰ 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	日本画研究 II						
授業コード	3260	授業科目名	日本画研究 II			担当者	教孟彌、講師 治原神師、講師 啓石、講師 重政、師、講 佐星、師、講 一室、師、講
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）						

【授業の概要と目標】

日本画の制作工程、日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために風景をモチーフに面接授業で制作する。風景については自然と向き合いながらその美しさを体感し、自然の骨格を知り、独自の視点で捉えることも含め日本画の扱い方や表現方法を生かす追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「日本画の制作工程」
風景をモチーフに写生、小下図、大下図の工程研究を踏まえ日本画絵具を使って、F15号の紙本着彩をする。

【授業計画】

○面接授業
第1日 午前：前提講義および制作解説／午後：制作のための風景デッサン
第2日 午前：デッサン／午後：デッサン
第3日 午前：下図、下地作り／午後：制作
第4～5日 午前：制作／午後：制作
第6日 午前：制作／午後：制作、講評
※ 学外見学あり。第1日、第2日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考
「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	日本画研究 III						
授業コード	3270	授業科目名	日本画研究 III			担当者	教孟彌、講 治原神師、 啓石、講師 重政、師、 佐星、昇井、 一室、講和 師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目						
授業形態	面接授業（日本画表現コース選択必修科目）						

【授業の概要と目標】

日本画の基礎を充実させる科目として、小下図、大下図の作り方から本画への基本的なプロセスを学ぶために墨を使って制作する。付立てや風景等を題材に描いたものをもとに墨で大作を通して、独自の視点で捉えることと水がもたらす表現の幅がどのような可能性が示すかを追求する。

【課題の概要】

○面接授業課題「墨を使つての制作工程」

墨を使つて様々なデッサン、それを使つて本画へのプロセスとしての小下図、大下図の追求を通して、墨で大作を描く。

【授業計画】

○面接授業

第1日 午前：前提講義および手本学習 午後：手本からの学習
第2日 午前：制作プロセス、デッサン 午後：デッサン
第3日 午前：デッサン 午後：デッサン、中間講評
第4～5日 午前：墨による制作 午後：墨による制作
第6日 午前：墨による制作 午後：講評

【成績評価の方法】

面接授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

油絵学科に所属していること。
「日本画基礎I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

「日本画基礎I」のスクーリングを先に受講していること。
日本画表現コース選択必修科目；選択必修3科目（日本画研究I～Ⅲ）より1科目以上単位修得が必要。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究学 I						
授業コード	3280	授業科目名	芸術研究学 I			担当者	田村裕教子 授二、金子伸教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

〔概要〕芸術研究の前提となる「芸術」及び「作品」の概念とその成り立ちを理解し、造形を文化的・社会的な事象として研究するための視点を身につける。

〔目標〕自身の鑑賞体験を、作品・鑑賞者・美術館の3要素を用いて説明できること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

〔レポート〕美術館の空間や展覧会の構成と美術作品の鑑賞体験との関係について考察する課題。

○通信授業課題 2

〔レポート〕美術館と博物館における作品・資料展示の特質について考察する課題。

【授業計画】

教科書のⅠ及びⅢにより学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

- ・Ⅰ ミュージアムというトポス（ミュージアムでなぜしゃべってはいけないの？／仏像を拝まなくていいの？／ミュージアム-作品の生まれるところ／博物館と美術館-文化を語る二枚舌の構造／ミュージアムと博覧会・展覧会-だれのため？ だれが見たのか？／ミュージアムという居場所）
- ・Ⅲ ミュージアムに行こう（世の中とつながりたいミュージアムの考えていること／ミュージアムの展示と解説-聞く、読む、そして観る／デザイン・ミュージアムはどうやって鑑賞するの？／みんなで一緒に鑑賞するには-ミュージアムでの鑑賞と鑑賞支援／大学とミュージアム-学ぶ、見せる、研究する）

【成績評価の方法】

通信授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

芸術文化学科芸術研究コース 1年次必修科目。

【教材等】

○教科書

木下直之編『未来を拓く人文・社会科学シリーズ 16 芸術の生まれる場』（東信堂 2009年）

○学習指導書

学習指導書『芸術研究学 I 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	芸術研究リサーチ						
授業コード	3290	授業科目名	芸術研究リサーチ			担当者	田村裕教 二金子伸 教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

造形芸術の研究やライティングに必要な文献・Web情報の探索と活用の方法、現地調査や人物取材の手法などを学ぶ。情報収集能力の向上と、集めた情報を編集・加工して論文などの自己表現に活かせるようなスキルの獲得を目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1「文献目録の作成」

芸術文化に関するテーマを設定し、それに関する文献資料を様々な情報源を活用して収集し、書誌データを整理して文献目録を作成する。また、テーマ設定から目録完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

○メディア授業課題2「年表（または年譜）の作成」

芸術文化に関するテーマを一つ設定し、それに関する主要事項を盛り込んだ年表（または年譜）を作成する。また、テーマ設定から表の完成に至るまでの行動プロセスと所感をレポートにまとめる。

【授業計画】

○講義動画の構成

1章 芸術研究リサーチとは何か

2章 図書館を知る

3章 図書館での資料探索

4章 インターネットによる資料探索-1

5章 インターネットによる資料探索-2

6章 現地調査とインタビュー取材の方法

7章 情報活用のための整理と編集加工

・講義動画の終了時に「学習チェック」を受け、全問正解したあとにメディア授業課題に取り組む。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。

具体的な必須要件は以下のとおり。

・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。

・ Microsoft Word Ver.14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver.14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。

・ 作成データをPDFファイル形式に変換できること。

・ PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考

芸術文化学科芸術研究コース 1 年次必修科目。同コース 2 年次編入生は 2 年次に、3 年次編入生は 3 年次に履修すること。

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究特殊講義 I						
授業コード	3300	授業科目名	芸術研究特殊講義 I			担当者	田村裕教子 授二、金子伸教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

【概要】 造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
【目標】 造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題

課題 パブリックアート：地元地域等の駅前、公園、街路、公共施設等に設置されている、絵画・彫刻等の作品の作者・作品名・作品形態・制作年・状態・経緯等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
 1. パブリックアートとは何か。
 2. パブリックアートの現在
 3. パブリックアートの調査と報告
 4. パブリックアートを考える
- ・調査成果のWEBキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

1 年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・ Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・編集・保存できること。
- ・ 写真の撮影と画像のWeb提出ができること。
- ・ WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考

推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究学 II						
授業コード	3310	授業科目名	芸術研究学 II			担当者	田村裕教子 二、金伸教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	通信授業（Web提出可）						

【授業の概要と目標】

〔概要〕美術史学における作品研究の方法を参考として、造形作品が様々な要素によって構成された複雑な構造体であることを理解し、作品を資料としてその多様な意味を読み解くための基礎的な能力を養う。

〔目標〕造形作品の特徴を、物理的な側面と精神的な側面とに分けて説明できること。

【課題の概要】

課題1 [レポート] 鑑賞した美術作品のスケッチとディスクリプションを行う課題。

課題2 [レポート] 鑑賞した美術作品から作者の感覚や判断を推察する課題。

【授業計画】

教科書により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

（主な内容）

- ・西洋美術史入門（美術史へようこそ／絵を「読む」／社会と美術／美術の諸相／美術の歩み）
- ・西洋美術史入門（実践編）（ひとつの作品をじっくりと読んでみよう／美術作品の何を見るか-一次調査と「主題と社会」／さまざまな視点-美術品と社会の関わりをみる実践例から／まとめ-より深い鑑賞のために）

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

池上英洋 著『ちくまプリマー新書 174 西洋美術史入門』（筑摩書房 2012年）

池上英洋 著『ちくまプリマー新書 212 西洋美術史入門（実践編）』（筑摩書房 2014年）

○学習指導書

『芸術研究学II 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	芸術研究コンセプション						
授業コード	3320	授業科目名	芸術研究コンセプション			担当者	教子 伸白 田村裕金 教授、田村裕金 教授、田村裕金 教授、田村裕金 教授、田村裕金 教授、田村裕金 教授、田村裕金 教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

〔概要〕 ロジカル・シンキングやクリティカル・シンキング、様々な発想法など、芸術文化に関する研究・活動に向けて独自の観点を立てるための手法を学ぶ。

〔目標〕 芸術文化に関するテーマを発見し、解決に導く発想力や、観察と解説・分析力、論理的に筋道を立てて考える力を錬成することを目標とする。

【課題の概要】

○メディア授業課題1

一つの造形作品を取り上げ、その作品について書かれた紹介、解説文や批評などを2つ以上読み、相互の論点や論理の展開などを「比較検討」する。

○メディア授業課題2

自分の推薦する造形活動や作品を効果的に紹介・推進するための問題点を見出し、授業で解説されている発想法や思考ツールを使って改善や解決のアイデアを探る。

【授業計画】

- ・講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 芸術研究コンセプションとは何か
- 2章 課題発見から解決までの道筋
- 3章 考える技術～ロジカル・シンキング
- 4章 クリティカルに読み解く
- 5章 問題点を見出し、解決に導く発想の技術
- 6章 先行研究から学ぶ
- 7章 生活環境や場の観察を通じた気付きの方法
- 8章 研究テーマの発見へ

【成績評価の方法】

メディア授業課題 (Webレポート) の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：2年次～

○履修条件：芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・ Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・ 作成データをPDFファイル形式に変換できること。
- ・ PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究特殊講義 II						
授業コード	3330	授業科目名	芸術研究特殊講義 II			担当者	田村裕教 二金子伸 教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

[概要] 造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
[目標] 造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題「郷土玩具の魅力と現代社会」
郷土玩具を見たり入手したりできる場所を探し、造形観察による特徴の把握と作品記録を行うとともに、郷土玩具名・産地・材料・寸法・発祥・用途・販売（頒布）地・製造法等を調査し、報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。さらに、調査した郷土玩具を題材としたレポートを作成する。

【授業計画】

・テーマと調査・報告の方法に関する講義動画の視聴と学習チェック。

1章 郷土玩具とは

2章 郷土玩具の現在

3章 郷土玩具の調査・記録と報告

4章 郷土玩具の魅力と社会との関わりを考える

・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：2年次～

○履修条件：芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。

具体的な必須要件は以下のとおり。

・Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。

・Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。

・写真の撮影と画像のWeb提出ができること。

・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究学 III						
授業コード	3340	授業科目名	芸術研究学 III			担当者	田村裕教 金子伸 二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	通信授業 (Web提出可)						

【授業の概要と目標】

〔概要〕近代日本における美術史学の受容と成立の過程を中心に、美術史が歴史的・社会的に構成されてきた文化であることを理解し、造形を題材として文化を研究するための基礎的な能力を養う。

〔目標〕文献資料の内容構成を分析し、知識の取捨選択や配列、体系の特徴を説明できること。

【課題の概要】

課題1 [レポート] 美術通史の書籍内容を整理し、傾向や特徴を説明する課題。

課題2 [レポート] 範囲が共通する美術史の書籍を比較し、美術史の観点を説明する課題。

【授業計画】

教科書の一から三により学修し、課題に基づいて学修報告を提出する。

(主な内容)

- ・一 国家・民族・宗教 (歴史と文化の枠組/「美術史」の展示/「美術史」の歴史のアイデンティティー/「美術史」と宗教)
- ・二 歴史の上の「近現代」 (歴史化の要件-「美術史」/日本の外国文化理解-孤立した「日本文明」/収集・コレクションとアイデンティティー/日本の日本文化理解)
- ・三 「現代」の上の「現在」 (指向ベクトルの転換-大正・昭和戦前期/時代論理の転換-戦後「現代」/「美術」の社会構造/「近代日本美術史」)

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

佐藤道信著『シリーズ近代美術のゆくえ 美術のアイデンティティー -誰のために、何のために』 (吉川弘文館 2007年)

○学習指導書

学習指導書『芸術研究学III 2022年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年)

【その他】

なし

科目名	芸術研究ライティング						
授業コード	3350	授業科目名	芸術研究ライティング			担当者	田村裕教子、 金仲白、 教授、 二井新太郎、 井師
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（芸術研究コース必修科目）						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

〔概要〕 芸術文化に関する事柄を記述するうえで必要な文章の種類と基本ルールを理解し、様々なタイプのライティング方法を学ぶ。
 〔目標〕 芸術文化に関する事柄を自分の言葉で表現する力を身につけ、論理的で説得力のある文章能力を養うことを目標とする。

【課題の概要】

- メディア授業課題1
芸術文化に関して味わった感動や喜びの気持ちをテーマに、多くの他者に伝えることを念頭においた、随筆文を書く。
- メディア授業課題2
芸術文化に関する出版物を1点選び、その本の書評を書く。

【授業計画】

- ・講義動画の視聴と学習チェック。
- 1章 はじめに～芸術文化をめぐるさまざまな文章
- 2章 フリーライティングからはじめよう
- 3章 説得力のある文章の書き方
- 4章 読み手に伝わる文章の書き方
- 5章 エッセイを書く
- 6章 ディスクリプションを書く
- 7章 批評文を書く
- 8章 書評を書く

【成績評価の方法】

メディア授業課題（Webレポート）の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：3年次～

- 履修条件： 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
具体的な必須要件は以下のとおり。
 - ・ Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
 - ・ Microsoft Word Ver.14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver.14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
 - ・ 撮影した写真データをPDFファイル形式に変換できること。
 - ・ PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	芸術研究特殊講義 III						
授業コード	3360	授業科目名	芸術研究特殊講義 III			担当者	田村裕教 金子伸 二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

[概要] 造形に関する特定テーマに基づいて受講者が調査を報告して共有し、意見交換を通してテーマに関する情報と知見を蓄積する。
[目標] 造形に関する事象を所定の形式にそって観察し、他者に共有可能なかたちで情報提供すること。

【課題の概要】

○メディア授業課題

芸術理論と美学のリアル：地元の市区町村立図書館を調査し、芸術理論・美学（日本十進分類法 [NDC] 701に該当）に配架されている図書のリストを作成し、情報源としての特徴や傾向を報告する。また、他の受講者の報告に対してコメントを行う。

【授業計画】

- ・テーマに関する講義動画の視聴と学習チェック。
- 1. 美術の本が好きだから
- 2. 美術の本の傾向と対策
- 3. 本と図書館の美術論
- 4. 実践・中井正一著『美学入門』を読む
- ・調査成果のWebキャンパス上での報告と意見交換。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：3年次～

○履修条件：芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。

具体的な必須要件は以下のとおり。

- ・Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
- ・Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
- ・WordやExcelファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	卒業研究 I						
授業コード	3370	授業科目名	卒業研究 I			担当者	田村裕教 金子伸 二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (芸術研究コース必修科目)						
授業形態	メディア授業 [リアルタイム]						

【授業の概要と目標】

〔概要〕 次年次の卒業研究に向け、研究テーマを検討し、完成までのスケジュール立案や研究に必要な基礎情報の収集をおこなう。
 〔目標〕 研究計画書を整え、資料調査・分析を実現するための見通しが持てること。

【課題の概要】

【課題の概要】

○メディア授業課題
 リアルタイム授業受講後に研究計画書を作成し、指定の期日までにWebレポートとして提出する。

【授業計画】

○メディア授業
 ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
 ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
 ・開講予定については「面接授業 [スクーリング] 日程表 メディア授業 [リアルタイム] 日程表」を参照すること。
 ・2日間全ての出席が必要

（メディア授業の構成）

1日目 卒業研究の概要説明、質疑応答
 2日目 受講者各自の研究構想の報告と意見交換

○研究計画書の提出（Webレポートによる）。

【成績評価の方法】

メディア授業課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次：3年次～

○履修条件：芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。
 インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、通信課題のWeb提出が行えること。
 具体的な必須要件は以下のとおり。
 ・Adobe PDF 1.3ファイル (Acrobat 4.0) を閲覧できること。
 ・Microsoft Word Ver. 14 (Word 2010) 文書またはMicrosoft Excel Ver. 14 (Excel 2010) ブックを閲覧・入力・編集・保存できること。
 ・作成データをPDFファイル形式に変換できること。
 ・PDFファイルをWebレポートの添付ファイルとして提出できること。
 ・Zoomミーティングに参加できること。

○備考：推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	ミュゼオロジー I						
授業コード	1370	授業科目名	ミュゼオロジー I	担当者	新見隆教啓 子島河原中 智智師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科【学1課程】3年次必修科目【学2課程】3年次選択必修科目）						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「ミュゼオロジー（博物館学）」の概念についての基本的理解を獲得し、世界と日本における博物館の成立から現在までの展開、現行の博物館法に基づく博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の条件と区分法、資料の保存と公開との関係、現代のヨーロッパと日本における博物館の動向、博物館の施設と活動との関係などについての基礎的知識を、美術館の事例を中心として学修すること。

【課題の概要】

○面接授業課題

学芸員の業務や美術館活動の実際を、講義と見学、グループ議論等により指導。

○通信授業課題

教材による学習の後、博物館施設の事例調査に基づく研究を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

*課題については学習指導書『ミュゼオロジー I 2022 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

- ・コレクション形成と美術館の成立/美術館と展覧会/学芸員の業務/美術館評価/美術館の動向 等
- ・美術館見学/学芸員・職員による説明/施設、展示、来場者等に関する調査
- ・見学施設への美術館評価のグループ発表と講評指導

○通信授業

- ・（教材による学習）ミュゼオロジーの概念/ミュージアム体験の意味/博物館法/博物館の種類/ミュージアムの歴史/各国博物館の特徴と社会背景/設置形態と収集理念/ミュージアムの空間/キュレーターの視点 等
- ・（学修報告と添削指導）美術館の人・物・場の関係について事例調査に基づく研究

【成績評価の方法】

通信授業、面接授業評価の平均点とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

- （学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
- （学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

新見隆編『ミュゼオロジーへの招待』（武蔵野美術大学出版局 2015 年）

○学習指導書

『ミュゼオロジー I 2022 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022 年）

【その他】

日頃からできるだけさまざまなミュージアムに実際に足を運び、そこで何を見て、体験し、そして何を感じたかについて振り返りつつ、学習をすすめてほしい。

また、レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

科目名	メディア論						
授業コード	1390	授業科目名	メディア論	担当者	金子伸二 教授、岡川純子 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目 (芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

*課題については学習指導書『メディア論 2022 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

・(教材による学習) 教育におけるメディア活用/視聴覚教育の源流と展開/視聴覚メディアの諸形態/メディアの概念と歴史/メディア「による」教育と、メディア「についての」教育/メディア・リテラシー教育の成立と展開/博物館におけるメッセージ伝達/メディアを活用した展示/教育の情報化/メディアに関わる諸権利等
 ・(学修報告と添削指導) 博物館内における情報発信の取り組みについての調査/博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

【成績評価の方法】

通信授業課題 1 と 2 を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

(学1課程) 「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること (芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く)。
 (学2課程) 芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

(学1課程)

芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

(学2課程)

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

佐賀啓男編著『改訂 視聴覚メディアと教育』 (樹村房 2010 年)

○学習指導書

『メディア論 2022 年度』 (武蔵野美術大学造形大学通信教育課程 2022 年)

【その他】

○参考文献

『メディア・リテラシー』 (菅谷明子著 岩波書店 2000 年) ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	生涯学習概論						
授業コード	1450	授業科目名	生涯学習概論			担当者	教田、講 幸紫、洋 藤、子、中 加、伸、田、師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3年次選択必修、【学1課程】文化支援コースは3年次必修）						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めることを目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題

博物館の生涯学習活用について講義とグループ議論等により指導。

○通信授業課題

教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

*課題については学習指導書『生涯学習概論 2022 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

スクーリング受講前に教科書をよく読むこと。
 ・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館 等
 ・施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
 ・調査発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

○通信授業

・（教材による学習）生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先達者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見 等
 ・（学修報告と添削指導）社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
 （学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備 考

スクーリング時に受講人数制限をする場合がある。

（学1課程）

芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。
 芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。
 芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3年次選択必修科目。
 学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』（武蔵野美術大学出版局 2008 年）

○学習指導書

『生涯学習概論 2022 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022 年）

【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。
 学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。
 面接授業ではグループワークを予定。

科目名	博物館資料保存論						
授業コード	2240	授業科目名	博物館資料保存論			担当者	金子伸二教授、小川絢子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館において資料を保存することの意義と保存の歴史、文化財保存の理念、保存を支える関係要素を理解したうえで、資料の材質・形状・状態に合わせた調査・保存・修理方法、資料の劣化因子と保存のための環境整備の重要性を認識し、あわせて展示・梱包・輸送など博物館活動に伴う資料の扱いと保存との関係などへの考察を通して、博物館における資料保存のための基礎的知識を、美術工芸、考古、民俗資料を中心として学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館における資料の保存と公開の取り組みに関する事例研究、資料の劣化につながる保存環境因子についての調査報告の2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業

- ・（教材による学習）博物館における資料保存の意義（文化財資料に求めるもの／保全をおびやかすリスクとは／臨床的保存の必要性／職業倫理／資料保存を支える専門家）、環境と資料の状態診断（資料の保存公開と環境の関係／環境をモニタリングして状態を評価する／資料の調査診断と記録）、環境と予防保存（環境を改善して資料を保全する／博物館資料を安全に輸送する／保存箱で安全な環境をつくる）、劣化と修理保存（修理を行う前に状態を調査する／対症修理と本格修理の役割／修理報告書を作成する／本格修理の事例）、教育と普及（保存活動の公開／保存教育）、環境保護と博物館の役割（低炭素社会との共存／自然災害への対応／環境と調和する資料保存）
- ・（学修報告と添削指導）博物館における資料の保存公開活動の事例研究／資料劣化につながる環境因子についての調査報告

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

- （学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。
- （学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース3～4年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

神庭信幸著『博物館資料の臨床保存学』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

○学習指導書

『博物館資料保存論 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館展示論						
授業コード	2250	授業科目名	博物館展示論			担当者	田村裕教 足立圭 講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館における展示活動の起源と変遷、近年の動向を把握したうえで、展示を成り立たせる条件、展示の目的と形式との関係、展示を構成する諸要素、展示計画の進め方についての基礎的な知識を学修し、あわせて展示という行為に伴う課題や展示において求められる配慮に対する意識を養い、展覧会の企画趣旨と資料の特性や空間の条件、来場者の状態やニーズを勘案した展示計画の基本構想を立案し伝達する能力を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、実際の博物館展示から企画趣旨と展示構成との関係を観察・把握し評価・改善提案を行う事例研究、収集された身近な事物を資料と見立てた小規模展示を計画し、実施した結果を記録・文書化する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業

- ・（教材による学習）博物館機能での展示の位置／展示の起源と展示学の成立／展示のインタラクティブ化・デジタル化／展示活動のプロセスと体制／展示に関する諸法令／館種等による展示の違い／展示を構成する諸要素／展示における解説活動／展示での資料劣化と管理／映像展示の特徴／展示におけるバリアフリー／展示の政治性・社会性／展示と知的財産権 等
- ・（学修報告と添削指導）展示の企画と構成との関係を把握し評価を行う事例研究／身近な事物を資料とした小規模展示の計画と実施

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
（学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース 3 ～ 4 年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

日本展示学会編『展示論 博物館の展示をつくる』（雄山閣 2010 年）

○学習指導書

『博物館展示論 2022 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館教育論						
授業コード	2260	授業科目名	博物館教育論			担当者	三澤一実、金子伸松、永康、教授、講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目/学科別専門科目（芸術文化学科3～4年次【学1課程】選択科目【学2課程】選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会教育施設としての博物館の役割と博物館における教育的機能の種類や特徴を理解したうえで、実際の活動事例の把握を踏まえて、活動実践のための考え方や具体化に向けた手法、学校や地域社会など館外との連携のあり方などを、美術館における教育普及活動を中心的な題材として学び、博物館における教育活動への理解を深めるとともに、教育の担い手としての基本的な認識と活動計画のための基礎的な能力を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1, 2

教材による学習の後、博物館で行われている教育プログラムに参加しその目的と内容構成について考察する事例研究、博物館における教育プログラム案および関連ツールの作成の 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業

・（教材による学習）博物館における教育活動の背景/学校教育との関係/来館者とのかかわり/博物館の種類に応じた取り組み事例/博物館とまちづくり/体験型展示/ワークシートの位置づけと事例/ワークシート開発の流れと留意点/学校における鑑賞教育事業 等
 ・（学修報告と添削指導）教育プログラムの目的と内容構成を考察する事例研究/教育プログラムの立案と実施のための関連ツール制作

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

（学1課程）「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く）。
 （学2課程）芸術文化学科芸術研究コースに在籍していること。

○備考

（学1課程）

芸術文化学科各コース 3 ～ 4 年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

（学2課程）

芸術文化学科芸術研究コース 3 ～ 4 年次選択必修科目。

学芸員課程履修者は、芸術文化学科以外の在籍者でも履修できる。

【教材等】

○教科書

小笠原喜康、チルドレンズ・ミュージアム研究会編著『博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス』（ぎょうせい 2006 年）

○学習指導書

『博物館教育論 2022 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022 年）

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	デザイン総合研究 I						
授業コード	3420	授業科目名	デザイン総合研究 I			担当者	上原幸子 保子河野 風子純一郎 講師
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	1~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『自分を可視化する』
デザインを学ぶ者にとって、アイデアを生み出していく過程で、自分が持っている引き出しの確認作業が必要になることが少なくない。自分の発想がどこからくるのか、自分は何に興味関心があるのか、今後何をしたいのか、その理由と展望について、自分の視点を確認できる情報ソースとして、周辺情報の整理と可視化を試みる。

【課題の概要】

課題名『マイデータグラフィックス』
自分を客観視することを目的に、自分年表を用いて自分のこれまでをビジュアライズした情報ツールを制作する。それらは、自分を取り巻く社会環境を、時間軸と関係軸で表すデータグラフィックスである。

【授業計画】

①自分情報を表にまとめる
たくさんの情報を整理するには、テキスト化する作業は欠かせない。まずひたすら書き出して検証していくことから見えてくるもの、導き出したい方向性を確認していくステップとして資料を作成する。

②手描きによる自分年表の作成
自分を取り巻くさまざまな社会環境を俯瞰しながら、時間軸を用いて記憶の中にある自分情報を可視化する作業を行う。個人の記憶として切り取られた情報だからこそ、手描きでしかビジュアライズすることはできない。自分の頭の中にある引き出しを整理し、確認できるツールを作成する。手描きに苦手意識をもたず、思いついたことを絵で書き留めておく習慣は身につけておいて欲しい。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
なし

【教材等】

○教科書
渡邊俊博著『考えを整理する・伝える技術 グラフィックレコード』（フォレスト出版 2019年）

○学習指導書
『デザイン総合研究 I 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

○参考文献
石黒謙吾著『分類脳で地アタマが良くなる 頭の中にタンスの引き出しを作りましょう』（KADOKAWA/角川マガジンズ 2015年）

科目名	デザイン総合研究 II						
授業コード	3430	授業科目名	デザイン総合研究 II			担当者	清水恒平教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (M1)	学年	1～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	メディア授業 [オンデマンド]						

【授業の概要と目標】

「図化考察—思考の図化トレーニング」
 デザインにおいては、あらゆる情報や関係性を分析・調査して、分かりやすい形にまとめる（編集する）力が求められる。この科目では、複雑な事象を図にすることによって整理する方法を学ぶ。すべての課題は紙と鉛筆を使用して行う。手を動かしながら頭を整理するための、思考の基本パターンのトレーニングを行います。

【課題の概要】

バブルマップ/ダブルバブルマップ/フローマップ/マルチフローマップなどの基本パターンを使用した20の小課題を行う。

【授業計画】

課題制作のための説明動画の視聴→課題制作→解説動画の視聴を基本のセットとして、合計20の課題を行う。
 提出は最後にまとめてPDFファイルにして Web 提出する。
 課題を行う際に使用するフォーマットのダウンロードやプリントアウト、提出の際のスキャンやPDF化については講義動画の中で説明する。

【成績評価の方法】

メディア授業の中で制作した作品（PDFにて提出）の総合評価

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
1 年次～

○履修条件
 「デザイン総合研究 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
 デザイン総合コースに在籍していること。
 インターネット接続環境があり、PCおよびタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続し、課題のWeb提出が行えること。具体的な必須要件は以下の通り。
 ・PDFファイルが閲覧できること。
 ・スキャンができること。
 ・スキャンデータをまとめたPDFファイルへの変換ができること。
 ・Web提出ができること。

○備考
 デザイン情報学科デザイン総合コース必修科目。
 推奨環境については『メディア授業の受講にあたって』を参照のこと。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	デザイン総合研究 III						
授業コード	3440	授業科目名	デザイン総合研究 III			担当者	教剛竹 梨、師 子原、講師 幸原、明村 教授、義智 上、中、枝、富 准、師、谷
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ーデザインサーヴェイから学ぶー

我々の暮らしを支える都市環境は、我々の求めに応じ様々な工夫がなされ、我々の暮らしを支えている。その重なりが街の個性となり、魅力となっている。
デザイン総合研究では、集い、憩い、楽しむといった都市空間に見られる様々な出来事を観察を通して読み解き、そこから生まれる印象(イメージ)を造形として表現するまでの過程を体験し、これから始まる造形の起点となることを目指している。
今回の「街の印象を形にする」という課題では、街の印象(イメージ)を造形として表現するとともに、その前提となる自分自身の街に対する「イメージの成長記録」とも言うべきチェックシート(振り返りシート)の作成を課している。これは、街の情報を採取し、想像し、検証を繰り返す中でイメージがどのように成長し、定着するか、という過程を克明に記録することで得られる自分だけの街の印象(イメージ)を形成することであり、次(造形表現)につながる重要な材料になり得るものであるからである。
我々が目指す造形の領域では、仕事に向き合うとき「何をイメージできたか?それを表現(表現)できたか?」という言葉に集約することができるが、この課題を通してイメージを成長させ、定着させることが造形行為の第一歩となることを認識し、今後の造形表現の起点となることを目標にしている。

【課題の概要】

デザインサーヴェイを通して、都市空間の実態とその演出性を客観的に読み取り、その成果をもとに造形表現を試みる。同時に、チェックシートを作成し、担当教員との話し合いを通してイメージの成長や考え方の変遷をその都度書き加え、作品制作に至る過程の克明な記録を作成し今後の糧とする。

【授業計画】

[面接授業4日間]

前半 第1日目 前提講義・課題説明
現地調査・ワークショップ
第2日目 現地調査・ワークショップ
作品制作
後半 第3日目 作品制作
第4日目 作品制作
発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ・Ⅱ」の単位修得または同時履修。

【教材等】

なし

【その他】

学外実習あり(現地調査とワークショップ)

科目名	デザイン総合研究 V						
授業コード	3460	授業科目名	デザイン総合研究 V			担当者	清水恒平教授、望月重太郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位(M2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	メディア授業 [リアルタイム]						

【授業の概要と目標】

インターネット、そしてスマートフォンが契機となった「テクノロジーの民主化」により、プロアマ問わずに誰もが表現者や開発者になることができる状況にある。専門知識がなくともアプリやWebサイト、グラフィックの開発などは様々なソフトウェア/サービスの補助により可能になり、YouTubeやBehanceのようなクラウドサービスを使うことで自身の持つクリエイティビティをオープンに、また表現者同士が距離や国籍、年齢や性別の制約を外れて繋がり合えるようになってきている。その上でデザインの観点から改めて本科目を見つめたときに、我々がデザインを用いてどのように社会と向き合うのか？を問い（「なぜ=Why」）、その問いから導出される新しい価値はどういったものか？を発見し（「何を=What」）、それを実現するための最適な手法はどれか？を選択していく（「どうやって=How」）一連のプロセスを通じて、デザイナーとして大切な「手法 (How) にとらわれないクリエイション」について触れ、社会にとってサステナブルなアイデアとアウトプットを導き出すことを目標とする。

本科目は全日を通じオンラインのみで行う。各自が自由に、各々のクリエイティビティを発揮できる場所から参加して欲しい（ただし、カフェや公共空間など、雑音の多い場所は避け、参加者同士が静かに集中できる環境が望ましい）。遠く離れた参加者同士が、今の通信環境と制作環境を用いながら、一つの目的に向かってアウトプットを構築していく試みである。

【課題の概要】

「社会にも経済にもサステナブルなアイデアをデザインする」テーマに基づき、「なぜ=Why」「何を=What」「どうやって=How」の流れに沿ってアイデアを考え、アウトプットを導きだしていく。グループワークにて進行し、最終日にプレゼンテーションを行う。

デザイン活動を行う中で「サステナブル」は大きなキーワードである。つくる、という行為は同時に「すてられるものをつくる」行為とも言える。そこを意識し、無為に消費されるだけではない循環するモデルについて改めて問い直していく。ただし、経済活動と連動しないアイデアは多くの場合において継続せず、どれだけ良いアイデアでも社会には定着しない。社会にも、環境にも、人にも、そして経済的にもサステナブルとなるアイデア（総じて「サーキュラーエコノミー」と呼ばれることもある）とは何か？に向き合い、具体的なアイデアを構築することを目的とする。

授業内では、Web会議システム「Zoom」を使用して進行し、同時にメッセージ共有ツール「Slack」を用いて各参加者や事務局とのやり取りを行う。またオンラインホワイトボードシステム「miro」や、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」を用いてアイデアを具体化する。よって、受講者自身のパソコン上でこれらのツールを使う前提の元、各ツールがどのようなものか？を科目参加前に各自で把握した上で授業を進めることとする。

【授業計画】

○メディア授業課題

第1日：オリエンテーション、企画検討

第2日：企画検討、企画案発表

第3日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備

第4日：アイデアの具体化、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション、総評

- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
- ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
- ・開講予定については「スクーリング・メディア授業日程表」を参照すること。
- ・4日間全ての出席が必要。

【成績評価の方法】

メディア授業[リアルタイム]の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

・「デザイン総合研究 I～IV」の単位を修得しているか、同時に履修すること。

・Web会議システム「ZOOM」が使えること

・メッセージ共有ツール「Slack」、オンラインホワイトボードシステム「miro」、企画書作成クラウドツール「Googleスライド」について事前に把握し、自身の作業環境で扱えることを確認した上で授業に臨むこと

・授業でも触れていくが、事前に「サステナブル」や「サーキュラーエコノミー」について調べておくことが望ましい

・「コンピューターリテラシー I」程度の知識は有していること。授業内でコンピューターの基本操作(テキスト入力やマウス操作などの)説明は行わない。

・操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。

・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適しています。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要です。

・ZoomはWebブラウザで利用できます。サインアップ（アカウント取得）は不要です。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構いません。その場合は、最新バージョンを使用してください。

【その他】

○メディア授業[リアルタイム]について：グループディスカッションを行う。

科目名	デザイン総合研究 VI						
授業コード	3470	授業科目名	デザイン総合研究 VI			担当者	白尾隆太郎 幸子教授、 清水恒平 教授、教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

デザイン総合コースでは、情報形成デザイン・環境形成デザイン・社会形成デザインの3つの科目群を、専門的にあるいは横断的に学びながら、一方では「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅴ」において、デザインを自己の感覚的な問題に還元しながら、モノやコトの本質を捉え直し、デザインの可能性を実験的に拡張して行くことになる。
「デザイン総合研究Ⅵ」では、最終科目である「卒業制作」に向けて、自分はどうのような領域に興味があるのか、また知識や技術を複合的に捉えながら、それらを柔軟に拡張し、自分が考えるテーマとして昇華させることを目指している。

【課題の概要】

【課題1】ことばを解体する “モノやコトを自分の言葉で分析する”
【課題2】かたちで構築する “分析したことばをかたちにする”

【授業計画】

【課題1】「ゆるい」「やさしい」「こまる」「ここちいい」「こわい」「あいだ」「たまる」「つなぐ」の中から1つの言葉を選び、その意味や概念を分解して図化したPDFをWEB提出する。また同時に発想した新たな価値観や疑問、概念などをテーマの種としてまとめる。
【課題2】課題1で発見した仮説やテーマの種を視覚化/具体化し、ドキュメントとしてPDFにまとめ提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。
「デザイン総合研究Ⅰ～Ⅴ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

【教材等】

○教科書
ウンベルト・マトゥラーナ/フランシスコ・バレーラ (著) 『知恵の樹生きている世界はどのようにして生まれるのか』 (筑摩書房 1997年)

○学習指導書
『デザイン総合研究Ⅵ 2022年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年)

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン I B						
授業コード	3500	授業科目名	情報形成デザイン I B	担当者	白尾隆太郎 教授、講師、子澤 貴子多美、講師、 木講涼子、講師、 高崎高師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『タイポグラフィとダイアグラム』
文字を組むことは、意味に形を与えることでもある。文字組すなわちタイポグラフィにおける視覚的側面を考察しながら、言葉と視覚表現の関係を考える。グラフィックデザインにおける紙面のレイアウトは、デザインの構造を決める重要な要素と言える。その骨格となる文字組の原理を理解し、デザインを構造的に構想できる力を養う。

【課題の概要】

○課題 1 「文字組」
あたえられた文章にタイトルを付け、コンピュータを使って組版、文字組として完成させる。

○課題 2 「ダイアグラム」
俳人小林一茶の歴史や生様を資料をもとにデザインする。

【授業計画】

○課題 1 「文字組」
オンラインプラス〔準備〕で前提講義を自宅で視聴する。
・「組版 1 -いろいろはの文字」「組版 2 -銀河鉄道の夜」「組版 3 -天声人語」という3つの組版に取り組む。
・講評会

○課題 2 「ダイアグラム」
オンラインプラス〔準備〕で前提講義を自宅で視聴する。
・事前に考えてきた計画について教員と面談する。
・資料を調べる。
・コンピュータを使ってダイアグラムを制作する。
・講評会
※オンラインプラス〔準備〕-事前説明動画配信
Webキャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
「デジタル造形基礎 I・II」「デザイン基礎 I A・B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン II A						
授業コード	3510	授業科目名	情報形成デザイン II A	担当者	清水恒平 教授、博川師 博川師、講師、修一、木、郎、教基小講		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	デザイン総合コース選択必修科目						
授業形態	通信授業 (Web提出)						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門 1」
 大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
 プログラミング言語はProcessingの使用を推奨する。

【課題の概要】

- 【課題 1】 オープンデータ、APIによるデータの取得方法の調査
- 【課題 2】 外部データを利用した情報表現

課題 1 では私たち個人が使用できるデータにはどんなものがあるのかりサーチを行う。
 課題 2 ではそれらのデータを使い新しい価値を見いだせるような作品を制作する。

【授業計画】

学習指導書『情報形成デザイン IA・IIA 2022年度』に沿って通信課題を制作し提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備 考
教科書は「デザイン基礎 II A」と同じものを使用する。この教科書の第8章までの内容は習得済みであることを前提のため、その内容を理解していないものは第1章から第8章を熟読し、十分に理解した上で受講すること。

【教材等】

○教科書
Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』 (オライリージャパン 2011年)

○学習指導書
『情報形成デザイン IA・IIA 2022年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年)

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン II B						
授業コード	3520	授業科目名	情報形成デザイン II B	担当者	清水恒平教基 博、植木、小 川、一、郎 修、師、講		
開講期間	通年	単位数	2単位 (M2)	学年	2~4	指定	
科目区分	デザイン総合コース選択必修科目						
授業形態	メディア授業[リアルタイム]						

【授業の概要と目標】

「データビジュアライゼーション入門 2」
 大量のデータを扱ったデータビジュアライゼーションの制作手法の習得を目指し、その基礎を学習する。
 プログラミング言語はProcessingを使用する。また、データベースはSQLiteを使用する。

【課題の概要】

【課題】 データベース (SQLite) を利用したビジュアライゼーション

【授業計画】

- メディア授業
- ・Web会議システム「Zoom」を使用した同時双方（リアルタイム）型のメディア授業。
 - ・授業の2日前までにWebキャンパスに登録しているメールアドレスにミーティングルームURLを送付する。
 - ・開講予定については「面接授業[スクーリング]日程表 メディア授業[リアルタイム]日程表」を参照すること。
 - ・4日間全ての出席が必要。

(前半2日間)

- ・UNIXコマンドの基礎
- ・SQLコマンドの基礎
- ・課題の説明

(オンラインプラス中間)

- ・課題の計画書を提出

(後半2日間)

- ・課題の制作

※オンラインプラス [中間] —BBS上での中間アドバイス
 Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う

【成績評価の方法】

メディア授業[リアルタイム]の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。
 インターネット接続環境があり、PC及びタブレット端末などで本学Webキャンパスに接続できること。

○備考
 「デザイン基礎 II A」で学習する程度の (Processingの) プログラミング技法を身に付けていること。
 具体的にはsetup関数とdraw関数の役割の違い、変数、if条件文、forループ文などがある程度理解していることを前提としている。
 知識を満たしていないと思う者は「デザイン基礎 II A」「デザイン基礎 II B」から受講すること。

- ・「コンピュータリテラシー I」程度の知識は有していること。授業内でコンピュータの基本操作（テキスト入力やマウス操作など）の説明は行わない。
- ・操作に不安のある学生は事前に練習をし授業に参加することが望まれる。テキスト入力やマウス操作の他には、最低限、Webブラウザを使用したWebの閲覧及び検索エンジンの使用が可能であれば、実習はスムーズに行えるはずである。
- ・カメラとマイクを備えたパソコンやタブレットPCが適しています。内蔵されていない場合は、外部マイクやカメラが必要です。
- ・ZoomはWebブラウザで利用できます。サインアップ（アカウント取得）は不要です。専用ソフト（ミーティング用Zoomクライアント）を使用しても構いません。その場合は、最新バージョンを使用してください。

【教材等】

なし

【その他】

○参考文献
 Casy Reas, Ben Fry 著、船田巧訳『Processing をはじめよう』（オライリージャパン 2011年）

メディア授業[リアルタイム]について：グループワークを行う。

科目名	情報形成デザイン III A						
授業コード	3530	授業科目名	情報形成デザイン III A	担当者	白尾隆太郎 教授、石垣垣 貴子、講師、 深澤涼子、 講師		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『私の博物誌 A to Z』

ここで言う編集とは、文章や素材をいかにまとめるのかといった狭義の意味ではなく、世界をどのように切って見せるかといった広義の視点から編集を捉え、それらをどのような要素で構成し、どのようにデザインするかによって、広く事柄を魅力的に伝えることができるのか、とりわけ「見てわかる」デザイン、すなわちビジュアルコミュニケーション（視覚伝達）を積極的に計画し実装することを、プロトタイプピングすることで、何が伝わり何が伝わらなかったのか実証的に学ぶことを目的としている。

【課題の概要】

○通信課題「私の博物誌」「私の食文化誌」 A to Z

個人の明確な情報を他者に発信するコミュニケーションを目的として、ここでは紙によるメディアを使って A to Z という編集形式で制作する。A1サイズ1枚分の紙を、折る・切る・束ねる・連ねる、その他自由な形体を考え、自らの視点で編集し、テーマを受け手にわかりやすく伝え、面白いコミュニケーションツールを考える。

【授業計画】

○通信授業「私の博物誌」「私の食文化誌」 A to Z

- ・教科書を読み前提学習をする。
- ・学習指導書を読み課題を理解する。
- ・企画案を考え事前提出する。
- ・企画案の添削指導に基づいて本制作し提出する。
- ・返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3～4年次

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
「情報形成デザイン I B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書
新島実監修『新版 graphic design 視覚伝達デザイン基礎』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書
『情報形成デザイン III A・IV A 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン III B						
授業コード	3540	授業科目名	情報形成デザイン III B	担当者	白尾隆太郎 教授、講師、 貴子、澤山、 深澤、涼子、 毅、師、講 師、弘		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『ページを構成する — 文字の本』
 文字は形に意味が込められているため、視覚的な表現と意味の関係をデザインすることができる。ポスターのように1枚で形成されている媒体であっても、編集という観点からは重要であるが、冊子においてはページ構成という立体的な構造をどのように編集企画の中で計画していくのかという、より高度な編集企画が要求される。この授業では、空間的、時間的な構成力を伴うエディトリアルデザインについて学ぶ。

【課題の概要】

○面接課題「文字の本」
 文字だけを使い、その形体的・意味的特性を生かしながらページの展開を考える。片ページ (200×200mm) の版型で16ページ (表紙、裏表紙を含む) に綴じた冊子を作る。

【授業計画】

○面接授業 (前半 2 日間)
 ・前提講義
 ・アイデアを考え指導を受ける。
 ・編集デザインの企画を発表する。
 ・コンピュータを使って試作する。

○面接授業 (後半 2 日間)
 ・冊子を完成させる。
 ・冊子を製本する。
 ・講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 3~4年次

○履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
 「デジタル造形基礎 I・II」「情報形成デザイン IA、IB、III A」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン IV A						
授業コード	3550	授業科目名	情報形成デザイン IV A	担当者	白尾隆太郎 教授、杉山 衛講師		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

『イメージの考察と作品』

デザインやアートの作品は、デザイナーやアーティストの思想に根ざし、作品として完成している。さまざまな表現が人間の共通感覚に根ざしたイメージを編集することによって成立していると考えれば、その原理を理解することによって、自らの発想の手がかりにできると考えられる。教科書『イメージ編集』は、作品を「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「演出」「省略と純化」「変換」の8つのテーマに分類し、背景にある作家の動機や思想を浮き彫りにしようとするものである。その思想に触れ、どのように表現されているかを理解し、自らの発想を論理的に構築しようとするものである。

【課題の概要】

○通信課題「イメージの考察と作品」

教科書『イメージ編集』にある「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「演出」「省略と純化」「変換」の8つのテーマから、3つを選んで、あなた自身がそれぞれの作例に相応しいと思われる作品を、デザイン・美術作品・写真・建築・コミックス・音楽などから選択し、図版と解説を指定されたデザインフォーマットにまとめる。また、8つのうちから1つのテーマを選び、作品を制作する。

【授業計画】

○通信授業「イメージの考察と作品」

- ・教科書を読み事前学習をする。
- ・学習指導書を読み課題を理解する。
- ・課題1-1を制作する。
- ・課題1-2を制作する。
- ・課題1-1、1-2を提出する。
- ・返送された添削文を読んで理解する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3～4年次

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備考

「情報形成デザイン I B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書

若林直樹・白尾隆太郎編著『イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

○学習指導書

『情報形成デザイン III A・IV A 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン IV B						
授業コード	3560	授業科目名	情報形成デザイン IV B	担当者	白尾隆太郎 教授、石垣 貴子、講師、 山口弘毅、 山師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

『私の自分図鑑』

人類は長い文化や知の歴史を紙と文字によって記録し、書籍という形で蓄積して来た。そこには人間の叡智と美学が存在し、編集とデザインというプロセスの中で書籍が刊行されるようになっている。現在では、デザイナーがコンピュータを使って、文章、写真、図版などを総合的に編集し制作できるようになったため、文章や組版、写真や図版についての様々な技量と知識が必要になっている。編集とデザインが融合しながら、文字や写真や図版を総合的に企画しデザインするエディトリアルデザインについて学ぶ。

【課題の概要】

○面接課題「私の自分図鑑」

自分について記述することを目指し、何をどのように記述するのかについて考え、A4×8ページ相当の紙面にデザインする。文章、写真、図版を企画に沿って準備し、総合的なデザインとして完成させる。

【授業計画】

○面接授業「私の自分図鑑」

- ・前提講義。
- ・企画を考え面談する。
- ・文章、写真、図版を準備する。
- ・コンピュータを使って制作する。
- ・講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3～4年次

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
「情報形成デザイン I B」を修得もしくは同時に履修していることが望ましい。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	情報形成デザイン VB						
授業コード	3570	授業科目名	情報形成デザイン VB	担当者	清水恒平教授、山田興生講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

データを通して考察できる社会の変化、表現手段、技術的な背景について実習を通じて学びます。

近年データという単語そのものが注目され、メディアでは AI、データ分析という言葉を目にしない日はありません。私たちの社会はビジネス、行政、教育、医療、そして表現活動の分野においてもデータを有効に活用するよう変化しつつあります。この授業ではそうした多様なインパクトをもつデータの世界を技術背景、社会的な影響、さらに表現の視点から掘り下げてみたいと思います。

具体的にはデータ分析環境を構築し、インターネット上に公開されたデータを実際に分析・視覚化する実習を通じてデータとその世界への理解を深めます。特に個人の表現方法の一つとしてデータ分析的な視点を持つことを目標とします。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平教授、山田興生講師）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、データビジュアライゼーションの手法と実例について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

データ分析環境の構築とデータビジュアライゼーション。

【授業計画】

第1日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

第2日 事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

オンラインプラス[中間]

Slackなどを利用して、インストールした分析環境でのデータビジュアライゼーション、検証、作業記録についてのディスカッションを行う。

第3日 分析環境を用いた制作・ディスカッション。

第4日 分析環境を用いた制作・発表・ディスカッション。

【成績評価の方法】

○面接授業

制作・プレゼンテーションした分析内容、論理的思考、問題解決能力などを総合的に判断する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3~4年次

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

○備考

LinuxまたはMacのターミナルの基本操作の基礎的な知識があることが望ましい。レベルに応じてクラス分けをする場合もある。

事前準備ができる場合は下記の内容をリサーチして作業しておくが良い。

- ・Python の基本操作

- ・Dockerの基本操作

- ・pandas によるデータ操作

- ・matplotlib によるデータ視覚化

以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

- ・macOS, Linux, Windows8 以上のいずれかの OS が動作すること。

- ・Python などのプログラミングや Web ブラウズが可能な画面サイズとキーボードを備えていること。

- ・面接授業では大学の Mac を使用することも可能だが、所有するコンピュータを持参することを強く奨める。(ノート型でなくても持ち込み可能)

- ・購入を検討中であれば (MacBook Pro, MacBook Air) を勧める。

【教材等】

なし

【その他】

『Data Points:Visualization That Means Something』 (Nathan Yau 著 Wiley 2013)

『Python によるデータ分析入門 第 2 版—NumPy, pandas を使ったデータ処理』 (Wes McKinney 著、瀬戸山雅人、小林儀匡、滝口開資 訳 オライリージャパン 2018)

『ビジュアルビジュアライゼーション』 (Julie Steele, Noah Iliinsky 編、増井俊之 監訳、牧野聡 訳 オライリージャパン 2011)

『ヤバい経済学 [増補改訂版]』 (レヴィット, スティーヴン・D. 著、ダブナー, スティーヴン・J. 著、望月衛 訳 東洋経済新報社 2007)
『エンジニアの知的生産術』 (西尾泰和 技術評論社 2018)
『新しい Linux の教科書』 (三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015)
『スラスラ読める Python ふりがなプログラミング』 (リプロワークス 著、株式会社ビープライド 監修 インプレス 2018)
『退屈なことは Python にやらせよう—ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング』 (Al Sweigart 著、相川愛三 訳 オライリージャパン 2017)
Web サイト動画: デビッド・マキャンドレス「データビジュアライゼーションの美」 <https://bit.ly/2HEERp3>

面接授業について: グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	環境形成デザイン I A						
授業コード	3580	授業科目名	環境形成デザイン I A	担当者	清水恒平、教授、師、 准教授、智史、 谷森史子、講、師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

テクノロジー1ー機能と造形ー

我々が暮らす環境を環境形成デザインという領域概念で捉えると、「身体性に基づいた機能を作り出す技術（テクノロジー）」、「暮らしを支えるフィールドを使いこなす知識（ライフスタイル）」、「体験から生まれる情報共有する方法（コミュニケーション）」という言葉が導き出される。これはヒト、モノ、コトという従来の立体・空間デザイン領域のキーワードを、我々の暮らしに即した具体的な言葉として導き出した言葉である。
環境形成デザイン I Aでは、我々が暮らす環境を構成する「モノ」と「空間」の両面からその利用実態を観察し「モノづくり」「空間づくり」について生活者の視点に立って両者の関係性について考察する。課題制作を通して日常的なデザインの課題と向き合い、今日的な「モノづくり」「空間づくり」に必要な考え方を包括的に捉え、思考の幅を広げ、領域の理解を深めることを目標としている。

【課題の概要】

ものづくりの前提となる生活者の視点に立って、「機能と造形」「空間を介して生まれる情報」についてそれぞれに考察し、その成果をレポートにまとめ、報告する。

○通信授業課題1

道具と機能の関係を考察し、その結果をスケッチとレポートでまとめ、評価し、提出する。

○通信授業課題2

身近な空間のインターフェイスの事例を選び、その実態を調査しレポートにまとめ、評価し、提出する。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』『ドローイング・モデリング』及び、学習指導書『環境形成デザイン I A・II A』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書
『環境形成デザイン I A・II A 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン I B						
授業コード	3590	授業科目名	環境形成デザイン I B	担当者	上原幸子教授、萩原剛森、史子、富智講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

テクノロジー2ー機能とデザインー

我々が暮らす環境を環境形成デザインという領域概念で捉えると、「身体性に基づいた機能を作り出す技術(テクノロジー)」、「暮らしを支えるフィールドを使いこなす知識(ライフスタイル)」、「体験から生まれる情報共有する方法(コミュニケーション)」という言葉が導き出される。これはヒト、モノ、コトという従来の立体、空間デザイン領域のキーワードを、我々の暮らしに則して具体的な言葉として導き出した言葉である。環境形成デザインIBでは、ヒトとモノの関係(身体性に基づいた機能を創出する技術とデザイン)について考察する。“道具の用途や使い勝手”“機能とデザイン”というモノのデザインに課せられる様々な要件(制作の前提となるテーマ、コンセプトの立案など)を、課題制作を通してモノづくりの基本プロセスを学ぶ。

【課題の概要】

機器に求められる機能、造形的な美しさ、身体性との調和など、制作の前提となるテーマ、コンセプトを立案する。モノづくりの楽しさと基本プロセスを、具体的なモデル制作を通して体験する。

- ・「はこぶ」という具体的な体験を通して、機器デザインに必要な条件を抽出し、造形の美しさとの調和を図りながら「はこぶ器」を提案する。
- ・はこぶモノ、はこぶ人、はこぶ状況など、シーン(場面)によって、はこぶ造形は変わる。「水」を「はこぶ」という行動からどのような造形が提案できるか。具体的なシーンを想定し、はこぶ造形を考える。
- ・どのようにしたらより安定させて、より遠く、より早く、楽しく、よりたくさんはこぶことができるか。いろいろな方法を試しながら精度を高めていく。

【授業計画】

[面接授業4日間]	
前半 第1日目	前提講義・課題説明、シーン設定 スケッチ・ラフモデル制作
第2日目	スケッチ・ラフモデル制作
後半 第3日目	ファイナルモデル制作・デザイン検討 ファイナルモデル制作・検証
第4日目	プレゼンテーション準備 プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

- ・参考文献『ドローイング・モデリング』(環境形成デザインIA教科書)を所持している場合は、面接授業を受講する際、必ず持参すること。
- ・面接授業の作業に際し、濡れても構わない服装を考慮すること。

○参考文献
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』(武蔵野美術大学出版局 2021年)
横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

科目名	環境形成デザイン II A						
授業コード	3600	授業科目名	環境形成デザイン II A	担当者	上原幸子教授、萩原剛山准教授、本博一講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ライフスタイル1ー暮らしを読み解く知識ー

環境形成デザインでは、モノとコトとの関係を、ライフスタイル (暮らしを支えるフィールドを使いこなす知識) というキーワードで、その関係性を言い表している。
 ここで言うライフスタイルとは、衣食住などに関して人が意思決定を行い、選択をした結果の行動ということになるが、これに加え、その根底にある人生観・価値観・日ごろの習慣などに現れる生き方や、アイデンティティーなどを含む有機的で包括的な考え方ということになる。これを要約して言い換えれば、ライフスタイルとは、ヒトの喜びを「予測」する知識と言い換えることができる。
 ヒトの暮らしを見つめ直すことは、既存の価値観や領域意識を見直し、私たち自身を主体としたモノとコトの関係を再構築することである。その裏付けとなる知識がライフスタイルということになる。
 環境形成デザインII Aでは、身近な環境 (近隣の住宅街や商店街など) について観察と考察を行い、自分自身にとって何が問題なのか？それは何が原因なのか？環境が人に与える影響や、人の嗜好や行動が環境 (モノやコト) にどのように影響してくるのか、課題を通してヒトと環境の関係について考察し、デザイン行為の前提となる考え方や知識であるライフスタイルについて認識を深めることを目標としている。

【課題の概要】

指定された課題図書を選び、その内容を要約し、コメントとしてまとめる。その後、課題図書を参考に身近な環境 (商店街) を調査した結果をレポートとしてまとめ、新たな提案を行う。

○通信授業課題1

指定された課題図書を読み解き、その概要をコメントとしてまとめ、その後、課題図書の手法に倣い身近な商店街を調査し、対象とする機器や空間に対するテーマや問題点をまとめ、その成果をレポートとして提出する。

○通信授業課題2

通信授業課題1でまとめたテーマや問題点を整理しに対する構想案を示し、その成果を新たな提案としてまとめる。

【授業計画】

教科書及び、学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書

牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』(武蔵野美術大学出版局 2021年)
 横溝健志、小石新八編『ドローイング・モデリング』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

○学習指導書

『環境形成デザインIA・IIA 2022年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年)

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン II B						
授業コード	3610	授業科目名	環境形成デザイン II B	担当者	上原幸子教授、 荻原剛山 准本博一講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ライフスタイル2ーライフスタイルから見るモノとコトの形ー

我々の生活を支える生活環境は、住空間を起点に、我々の成長とともにその範囲を広げていく。これは、我々が社会生活を営む上で、段階的に獲得していく環境の厚みに他ならない。視点を変えて、環境を我々が暮らす上で意識や行動に直接的、間接的に影響を与える存在として捉える時、その利用の仕方は多様であり、また様々な形態をとることになる。環境形成デザインII Bでは、指定された身近な公園をテーマに利用者の振る舞いなどについて観察し、利用実態を明らかにするとともに、用意された情報(指定された公園の近隣情報など)をもとに利用者の動向を分析し、公園と利用者の関係を明らかにした後、あるべき公園の形(空間およびモノ)を提案する。この授業を通して、提案者としてライフスタイルという考え方と知識をどう使いこなすか、課題制作を通して認識を深め、今後の課題制作の思考の場の獲得を目標としている。

【課題の概要】

指定された公園の利用実態を調査し、用意された公園情報(周辺環境、土地の記憶、成立の背景など)を考慮し利用実態を明らかにし、現状に則した新たなテーマ、コンセプトを設定し、提案する。

【授業計画】

[面接授業4日間]
 前半 第1日目 前提講義・課題説明、指定された公園(ミニパーク)を各自が調査
 結果を持ち寄りグループ討論
 第2日目 独自のテーマ、コンセプトの作成
 中間発表
 後半 第3日目 機器のデザインまたは空間のプランニングの制作、提案
 (テーマ、コンセプトを起点に)
 第4日目 機器のデザインまたは空間のプランニングの制作、提案
 発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

学外実習、グループワークがある場合がある。

科目名	環境形成デザイン III A						
授業コード	3620	授業科目名	環境形成デザイン III A	担当者	清水恒平 教授、助教、准美場次馬 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン情報学科選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

コミュニケーション1—絵画表現による情報伝達—

環境形成デザインでは、ヒトとコトの関係を「ヒトとコトの間に生まれる情報の共有を空間を介したコミュニケーション」という言葉に集約して表している。これは、従来のデザイン行為の枠組みを示すヒト、モノ、コトの関係をより生活実態に則し、社会的視点を加えることによって生まれたキーワードである。ここで言うコミュニケーションとは、イメージを介した造形による情報共有の方法ということであり、造形が発する造形言語と呼ばれる「言葉」を介した情報伝達のことを言うのである。環境形成デザインIII Aでは、自分自身の思いや情報を絵画的な手法を用いて、客観的に伝える方法と、その可能性について考察する。ものづくり、空間づくりを旨とするデザイン領域では、その再現性から図面情報による客観的な情報伝達は、欠くことのできない条件であるが、それにプラスしてデザイナーの思いや考え方を伝えるためのデザインスケッチは、図面情報に劣らない大切な情報となり得る。課題制作を通して、デザインスケッチの精度の向上を図るとともに、デザインスケッチによるコミュニケーションの可能性を研究する。

【課題の概要】

自己体験から生まれる思いを複数のシーンスケッチで構成する。

○通信授業課題1

体験から得られる記憶（旅の思い出、一日の出来事、感動体験など）をもとに、短い物語を作成し、その内容をシーンスケッチを用いて構成する。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』及び、学習指導書『環境形成デザインIII A・IVA』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書
『環境形成デザインIII A・IVA 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン III B						
授業コード	3630	授業科目名	環境形成デザイン III B	担当者	清水恒平、教 准授、教授、剛 場美次、馬師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン情報学科選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

コミュニケーション2ー伝達と表現ー

環境形成デザインでは、ヒトとコトの関係を「ヒトとコトの間に生まれる情報の共有を空間を介したコミュニケーション」という言葉に集約して表している。これは、従来のデザイン行為の枠組みを示すヒト、モノ、コトの関係をより生活実態に則し、社会的視点を加えることによって生まれたキーワードである。ここで言うコミュニケーションとは、イメージを介した造形による情報共有の方法ということであり、造形が発する造形言語と呼ばれる「言葉」を介した情報伝達のことを言うのである。環境形成デザインIII Bでは、造形が発する言葉（造形言語）を理解した上で、テーマに沿った立体・空間構成を行い、その後演出照明を施し、より発信力の強い空間を出現させ、意味が生じる瞬間を体験する。光には、空気のような体感的な作用があり、影には視覚的な作用がある。光の持つ繊細さと強さは、しばしば静止画によって如実に語られているが、光を当てない影の表象もまた光の領域である。光と影、素材と形体という複合的な効果から空間に意味が生まれ、空間はイメージを介してコミュニケーションの場として機能する。光は造形と相まって、思いを誘発させ喚起させる表現媒体でもある。伝達と表現という科目の目標に対し、グループワークを通して作品制作を行い、その可能性を研究する。

【課題の概要】

- ・各グループに分かれテーマを設定し、テーマに沿うよう複数の正六面体で空間を構成する。その後、演出照明を加え、より発信力の強い空間を創出する。
- ・創出した空間をそれぞれがシーンスケッチとして表現する。

【授業計画】

〔面接授業4日間〕

前半	第1日目	前提講義・課題説明、演出照明の実証実験 グループワーク（テーマの設定、空間構成）
	第2日目	グループワーク（光と造形による演出空間の創出）
後半	第3日目	グループワークで制作した演出空間の描写トレーニング
	第4日目	グループワークで制作した演出空間の描写トレーニング 発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン IV A						
授業コード	3640	授業科目名	環境形成デザイン IV A	担当者	清水恒平、教 准萩原、授 来教一彦、 師、枝子、奥 梨		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン情報学科選択必修科目）						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

環境形成デザイン研究1ー問題抽出と問題解決ー

環境形成デザインの学びとは、我々が暮らす生活環境で発生する様々なデザインの課題に対し、何が問題なのか？それは何が原因なのか？それをどう表現すればいいのか？という、問題を抽出する分析的な思考の力と、問題解決に向かう造形的な表現の力を養うことである。そのために用意された科目群が、環境形成デザイン I A、I Bから始まる環境形成デザインの専門科目群である。これは従来のデザイン行為の枠組みを示す「ヒト、モノ、コト」を再編して導き出された「テクノロジー、ライフスタイル、コミュニケーション」という3つのキーワードの持つ意味と意義について総合的に学ぶための科目群であった。

環境形成デザインIV Aでは、今までに学習した科目の内容を総合的に振り返り整理する機会とするとともに、環境形成デザインが目指す領域意識を再確認するための科目である。あらかじめ用意された課題テーマを立体・空間の各領域からアプローチし、課題テーマと暮らしの関係を見直し、問題抽出、問題解決へと向かうプロセスを、課題制作を通して確固たるものとするために研究を深めることを目的としている。

【課題の概要】

日常生活に潜む問題を自身のものとして選び出し、何が問題なのか？どう改良すればいいのか？自分自身の思いを起点として自分自身とモノと空間の関係を見つめ直し、独自の提案を行う。「モノ」と「空間」どちらかを選択し、提案する。

○通信授業課題1「雨の日もまた楽し」
雨の日をワクワクする日に変える「モノ」や「空間」の提案を行う。

【授業計画】

教科書『モノと空間のデザインを考える』及び、学習指導書『環境形成デザインⅢA・ⅣA』をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
牧野良三編『モノと空間のデザインを考える』（武蔵野美術大学出版局 2021年）

○学習指導書
『環境形成デザインⅢA・ⅣA 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン IVB						
授業コード	3650	授業科目名	環境形成デザイン IVB	担当者	清水恒平、教一、清授、准来、来師、也、師、講、師、直		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン情報学科選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

環境形成デザイン研究2—問題抽出と問題解決—

環境形成デザイン領域では、デザインの枠組みを示すヒト、モノ、コトの関係を再編してテクノロジー、ライフスタイル、コミュニケーションという新しい枠組で領域の考え方を示してきた。ここで言う3つのキーワードは、それぞれが独立した領域を示すものではなく、それぞれの領域が複合的、有機的に関係し合い、環境形成デザイン領域を考察する要素として捉える考え方である。環境形成デザインIVBでは、我々が暮らす環境をフィールドとして、示された抽象的なワードをテーマに、互いが志向する領域から自由な議論を交わし、領域の理解を深める。その後、各自が示されたテーマに対し独自のコンセプトを展開し、提案に至るまでのプロセスを構想し、環境形成デザイン領域を総合的に俯瞰する思考の場を獲得することを目標としている。

【課題の概要】

サステナブル=持続可能を前提としたモノや空間（場）の提案。3つのキーワード「結ぶ・繋ぐ・集める」という言葉のイメージを起点としてデザイン提案を行う。

【授業計画】

[面接授業4日間]

前半 第1日目 前提講義・課題説明
ブレインストーミング・ワークショップ、担当教師との対話、課題制作
第2日目 課題制作
中間発表
後半 第3日目 課題制作
第4日目 課題制作
発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	環境形成デザイン VB						
授業コード	3660	授業科目名	環境形成デザイン VB	担当者	清水恒平、教一、彦富、子、梨、枝、奥、村、師、講、授、准、来、師、講、梨、枝、奥、村、師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン情報学科選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

環境形成デザイン研究3—問題抽出と問題解決—

SDGsのもとで「豊かさを実感できる」暮らしを実現するために、デザインは何をなすべきか？
 生活環境におけるモノから空間までのデザインを複眼的に追求することを旨とする環境形成デザインでは、具体的な学びの方策として従来のデザインの枠組みである「ヒト・モノ・コト」を再編して新たな枠組みを用意してきた。(テクノロジー:身体性に基ついた機能を作り出す技術、ライフスタイル:暮らしを支えるフィールドを使いこなす知識、コミュニケーション:体験から生まれる情報共有する方法)
 環境形成デザインVBでは、学びの集大成として3つのキーワードの関係を見つめ直し、デザインを複眼的に考察する意味について理解を深め、今後のデザイン活動の基礎となることを目標としている。

【課題の概要】

サステナブル=持続可能を前提としたモノや空間(場)の提案。写真(画像)から発想されるイメージを起点としたデザイン提案を行う。

【授業計画】

[面接授業4日間]
 前半 第1日目 前提講義・課題説明
 プレゼンテーション・ワークショップ、担当教師との対話、課題制作
 第2日目 課題制作
 中間発表
 後半 第3日目 課題制作
 第4日目 課題制作
 発表、講評

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
 3年次～

○履修条件
 デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

なし

【その他】

なし

科目名	社会形成デザイン I A						
授業コード	3670	授業科目名	社会形成デザイン I A	担当者	上原幸子教授、山田翔江師、澤太澤勇介講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

目の前にあるのに見えていないこと、見えているのに気づかないことなど、身近にある宝を再発見し、気づくことの大切さを学ぶ。自分では気づきにくいことに光を当てるためには、まず気づいていないと認識することがスタートとなる。自分周辺の第一次情報の貴重さを、可視化をとおして実感し、ソーシャルデザインが目指すべき方向性と自らの足掛かりを見つけることが、この科目の大きな目標である。

【課題の概要】

〔課題1〕わたしの生態環境マップ
自分を1個の生態と捉え、その周辺環境を見つめ直す装置として、他者との対話を元に絵地図づくりを行う。

〔課題2〕ソーシャルレンズ
「選択」のメディアである写真の特性を生かし、体験的に集められ切り取られる視覚情報を編集することをとおして、日常の中にあるまの再発見を目指す。

【授業計画】

〔課題 1〕わたしの生態環境マップ
自分を取り巻く環境を俯瞰できる絵地図を作成する。
日常何気なく過ごしているフィールドを可視化する装置づくりをとおして、見えていなかったことの掘り起こしと気づきの重要性を体験する。
制作のプロセスで、他者とのディスカッションを行い、ビジュアルレポートとしてレイアウトしてまとめる。

〔課題 2〕ソーシャルレンズ
「見る・観る・視る」の違いを、組み写真として編集し可視化する。
〔課題 1〕の絵地図に盛り込まれた地域情報から、まちの特色、地形、歴史、人々の生活、文化、時間の経過によって変化したもの・新しいもの、地域の大事にしていること、発見したことなど、関心事を抽出しテーマを導き出す。
まち探検をして取材を試みるのもひとつの手段。
※課題に取り掛かる前に教科書を熟読すること。
※課題内容については学習指導書『社会形成デザイン I A 2022年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2 年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
MacintoshまたはWindowsで、編集作業が可能なソフトウェア (PowerPoint、Word、Adobe Photoshop、Adobe Illustratorなどいずれか) を使用する。

【教材等】

○教科書
『地元を再発見する！手書き地図の作り方』（手書き地図推進委員会編著 株式会社学芸出版社 2019年）

○学習指導書
『社会形成デザインIA 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

○参考文献
乾久美子+東京藝術大学 乾久美子研究室 編著『小さな風景からの学び～さまざまなサービスの表情』（TOTOT出版 2014年）

科目名	社会形成デザイン I B						
授業コード	3680	授業科目名	社会形成デザイン I B			担当者	上原幸子、堀田子、野奈保、河野子、講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	2～4	指定	
科目区分	学科別専門科目（デザイン総合コース選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

ソーシャルデザインのリテラシーとして、人ごとではなく自分ごととしての意識の獲得を前提としたい。そのために、自分が大事にしたいこととは何か、改めて自分発という発信感覚を養うことを目指す。デザイン思考+想いをカタチにするビジョンを組み立て、人に届く言葉や共感を生むために必要な制作プロセスを体験する。

【課題の概要】

【課題】 マイビジョン物語
眠っている自分の意識を掘り起こし、大切にしていることやこだわりなどをストーリーで伝えるマイCM企画制作を行う。解説するのではなく、背景、動機、必要性などを元に、説得力あるストーリーと構成、演出とは何かを考え制作する。メディア制作をとおして考えや想いを伝え、また観客として観る相互体験により、他者へのまなざしと他者からのまなざしをあらためて認識する。

【授業計画】

(事前)
Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて事前リサーチの解説

(前半)
グループワーク
・ 偏愛マップ、Beの肩書きワークショップ
個人ワーク
・ スキルサポートレクチャー：物語化、編集軸と構成
・ タイトル、タグライン、ステートメントシートを制作
・ 「マイビジョン物語」のシナリオ、絵コンテ制作
・ 中間発表

(中間)
Webキャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作素材の解説

(後半)
個人ワーク
・ スキルサポートレクチャー：PC操作、編集、演出効果
・ 動画、8コマ漫画、紙芝居などのメディア制作
・ プレゼンと閲覧
※受講に際しては持参物の確認をすること。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
2年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「デジタル造形基礎 I」を先に受講することが望ましい。
スクリーニングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

グループディスカッション・発表を行う。

○参考文献
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

科目名	社会形成デザイン II A						
授業コード	3690	授業科目名	社会形成デザイン II A	担当者	上原幸子、朝比奈保子、河野奈保子、河野翔太、講師		
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインII A」ではプロジェクトのデザインについて学ぶ。人との共通の体験をとおして、考えた企画を動かすために必要な「デザイン」の手応えを得ること、やったことを可視化する「形」を共有すること、そして自分にフィードバックされるプロジェクトデザインの意義を確認することを目的とする。

【課題の概要】

【課題】日常生活活性プロジェクト
日常生活活性をきっかけに、ちょっとした工夫を楽しむプロジェクトをデザインする。プロジェクトの企画意図、関わるメンバーの紹介・実行の過程・感想や考察など、やったことを振り返り共有することのできる「プロジェクトの記録」を可視化する。

【授業計画】

日常生活や人間関係をより豊かにするために、身の周りの人たちとできる小さなプロジェクトを企画・実行する

- ・もっと生活を楽しみたい、ちょっとした喜びを感じたいと思うところからスタート
- ・身近な人と、実際にできることを企画する
- ・プロジェクトの企画と同時に制作物の構成も考える
- ・企画を楽しくするためのコミュニケーションツールを制作する
- ・プロジェクトを実行し、記録をとる
- ・やったことを可視化するデザイン構成を考え制作する
- ・プロジェクトをふりかえり、メンバーにプレゼントする

※ 課題に取り掛かる前に教科書を熟読すること。

※ 課題内容については学習指導書『社会形成デザインII A・III A 2022年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

【教材等】

○教科書
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書
『社会形成デザインII A・III A 2022年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年）

【その他】

なし

科目名	社会形成デザイン II B						
授業コード	3700	授業科目名	社会形成デザイン II B	担当者	上原幸子 朝比奈 ゆり 内新太 教授、 講師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインII B」では、プロジェクトのデザインについて学ぶ。デザインを考えるには、対象と目的が明確であることが必須である。具体的な相手と目的を見据えることで漠然とした提案にならず、アイデアを考えることへのモチベーションを高めることにつながる。この授業では、魅力あるプロジェクトを企画立案し、相手に伝わるプレゼンテーションについて考察する。

【課題の概要】

〔課題〕 地域を元気にするデザインプロジェクト
都内の特色あるコミュニティデザインの実践者をゲストに招き、社会的な意義や役割、地域での必要性、活動の動機や継続していくための工夫などレクチャーを行う。その魅力の分析を行い、新たな課題の設定とプロジェクトの提案を行う。
グループでのディスカッションを元にお互いの企画アイデアを高め、ゲストに対してプロジェクトのプレゼンテーションを行う。

【授業計画】

<前半>

- ・ゲストティーチャーによる事例紹介
- ・対象へのリサーチ活動
- ・グループディスカッション、ワークショップ
- ・プロジェクトの素案作成

<後半>

- ・プロジェクトの具体化
- ・プレゼンテーションに向けての準備、役割分担
- ・個人制作とグループワーク
- ・ゲストティーチャーへのプレゼンテーションとふり回り

※ 受講に際しては持参物の確認をすること。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「コンピュータリテラシーⅢ」を先に受講することが望ましい。

スクーリングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

グループディスカッション・発表を行う。

○参考文献
上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

科目名	社会形成デザイン III A						
授業コード	3710	授業科目名	社会形成デザイン III A	担当者	上原幸子、朝比奈、角ゆりめ、江澤みづみ、講師、講師		
開講期間	通年	単位数	1単位(T1)	学年	3～4	指定	
科目区分	学科別専門科目 (デザイン総合コース選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインⅢA」では、コミュニティーデザインについて学ぶ。個人と社会のかかわりをテーマに、地域にコミットするための取材・メディア化について発展的に学ぶ。リサーチを元に眠っている資源を掘り起こし、人と人・人と社会など、さまざまな場面でのインタラクティブなコミュニティーデザインの可能性を探る。メディアをコミュニケーションの道具として捉え、企画やテーマが最も生かされる表現手法など、メディアリテラシーの獲得を目指す。

【課題の概要】

〔課題〕 発見! 「地域のヒト、地域のコト」
自分の地域にある自慢したいモノ・コト・ヒトをリサーチし、活動の場実際に足を運んでのインタビューと取材を行い、その活動を伝えるメディアの提案をする。
誰に対して何を伝えたいのかを明確にすることによって、多様なメディアの形態が考えられる。制作物は取材先にプレゼントし、その報告とともに提出する。

【授業計画】

コミュニティーポ
 ・地域を知る。
 所属する地域に改めて目を向け、魅力を感じる対象のリサーチを行う。
 ・自分の中にあるアンテナの再確認を行う。
 選択という行為をとおして、自分の興味・関心・モチベーションの在処を探る。
 ・取材をする。
 自ら足を運んで取材者という立場で、見て聞いて体験した第一次情報を記録する。
 ・地域の活動を紹介する編集企画を考えメディアを制作する。
 ビジュアルコミュニケーションの力を役立てる。
 中間指導を受ける (郵送提出)
 ・制作物を提出し、教員からのアドバイスを受ける。
 取材先への報告レポート (web提出)
 ・アドバイスを元に完成させ、制作物と共に取材先に報告する。

※ 課題に取り掛かる前に教科書を熟読すること。
 ※ 課題内容については学習指導書『社会形成デザインⅡA・ⅢA 2022年度』を必ず参照すること。

【成績評価の方法】

通信課題の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～
○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること

【教材等】

○教科書
上原幸子編『デザインとコミュニティ』 (武蔵野美術大学出版局 2018年)
○学習指導書
『社会形成デザインⅡA・ⅢA 2022年度』 (武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2022年)

【その他】

なし

科目名	社会形成デザイン III B						
授業コード	3720	授業科目名	社会形成デザイン III B	担当者	上原幸子 朝比奈 ゆめぐみ 角め講 師		
開講期間	通年	単位数	2単位 (S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	学科別専門科目（選択必修科目）						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

「社会形成デザインIII B」では、コミュニティーデザインについて学ぶ。アートとデザインには、まちや人を元気にする力がある。地域の資源を生かしながら、地域社会に於けるアートとデザインの活躍の場を広げていくことを目的に、生きた学び合いの場を創出する。美術大学での学びを活かし、私たちに何ができるかを共に考え、改めて問い直してみる機会としたい。

【課題の概要】

〔課題〕コミュニティーデザインセミナー
校友会との連携により、コミュニティーデザインに携わっているゲストを迎え、グループで授業内オープンセミナーイベントを企画・開催する。双方向に学び合う場づくりをととして、合意形成のためのコミュニケーションデザイン、プロセスのデザイン、空間のデザイン、広報のデザイン、プロデュースなど、イベントの企画運営に必要な複合的要素を学ぶ。

【授業計画】

(前半)

- ・ゲストティーチャーによるレクチャー
- ・コミュニティーデザインセミナーの企画を考える
- ・広報制作

(後半)

- ・紹介動画の作成
- ・オンラインセミナーの企画開催
- ・まとめと記録制作

※ 受講に際しては持参物の確認をすること。

【成績評価の方法】

面接授業の評価による

【履修条件及び履修年次】

○履修年次
3年次～

○履修条件
デザイン総合コースに在籍していること。

○備考
初めて、もしくは基礎をもう一度確実にしたい場合は「コンピュータリテラシーⅢ」を先に受講することが望ましい。スクリーニングではMacintoshを使用する。

【教材等】

なし

【その他】

グループディスカッション・発表を行う。

○参考文献
上原幸子編『デザインとコミュニティー』（武蔵野美術大学出版局 2018年）